

井筒俊彦研究文献一覧

2020 年度版

科学研究費助成事業・基盤研究(B)(平成 29 年度～令和元年度)

井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討

課題番号 17H02278

研究代表者 澤井義次(天理大学教授)

凡 例

1. 「井筒俊彦研究文献一覧」は、2020年2月時点における井筒俊彦に関する日本語研究文献（単著・論文集・雑誌論文・紀要論文・書評・解説・対談・月報・新聞記事・目録）、井筒俊彦に関する欧文研究文献（論文集・翻訳・雑誌論文・紀要論文・書評・解説）より成っている。
2. 井筒俊彦に関する研究文献の書誌情報を刊行年月の編年体で記載する。
3. 井筒俊彦の著作や翻訳、対談集などは採録していない。
4. 井筒俊彦に関する独立した文献だけでなく、他の研究対象を主テーマとする単行本の章や節において井筒俊彦について論じているものも作成者の判断によって採録した。この場合、井筒俊彦について述べられている箇所の章題とその頁数とを記す。
5. 雑誌論文・紀要論文の場合、執筆者、「論文題名」、『掲載誌名』（通号数）あるいは（巻数号数）、発行年月、掲載頁、注の順で記す。単行本の場合、執筆者、「論文題目あるいは章題」、『書名』、出版社、発行年月、（掲載頁）、注の順に記す。欧文著作における単行本の表題と雑誌名はイタリック体で示した。また欧文の論文題目は“ ”で括った。
6. 新聞は朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、日本経済新聞を収録の対象として、地方新聞などは除外した。
7. 井筒俊彦研究文献一覧のデータベースは天理大学宗教学科 HP で公開している。
<http://www.tenri-u.ac.jp/topics/q3tnacs00001diyeb.html>
今後も作成者が管理して情報を更新していく予定である。
8. 関連著作著者名索引（p.35）に執筆者と執筆年を示した。同年に複数の論考を発表している場合、括弧内にその数を記載した。

作成＝長岡徹郎

1951 年

前嶋信次「書評 井筒俊彦著, アラビア語入門 (慶應義塾大学語学研究所, 語学論叢, 1950年9月、慶應出版社)」『史学』第25巻第1号、三田史学会、1951年7月、pp. 114–118.

1960 年

E. B., “Toshihiko Izutsu: *The Structure of the Ethical Terms in the Koran*. 275 pp. Tokyo 1959”, *Anthropos*, Vol. 55, Freiburg: Paulusdruckerei, 1960, p. 630.

1961 年

Robson, James, “Izutsu, T. *The Structure of the Ethical Terms in the Koran*”, *Journal of Semitic Studies*, Vol. 6, Oxford: Oxford University Press, 1961, p. 285.

1962 年

al-Faruqi, Isma'il R., “Reviewed Work: *THE STRUCTURE OF THE ETHICAL TERMS IN THE KORAN* by Toshihiko Izutsu”, *Islamic Studies*, Vol. 1–2, Islamabad: Islamic Research Institute, International Islamic University, 1962, pp. 148–154.

Paret, Rudi, “Toshihiko Izutsu, *The Structure of the Ethical Terms in the Koran*”, *Die Welt des Islams*, Vol. 8, Leiden: E.J. Brill, 1962, p. 60.

1964 年

Watt, W. Montgomery, “T. IZUTSU: *The Structure of the Ethical Terms in the Koran*”, *Der Islam; Zeitschrift für Geschichte und Kultur des Islamischen Orients*, Vol. 39, Berlin: Walter de Gruyter, 1964, pp. 272–273.

1966 年

Rahman, Fazlur, “Toshihiko Izutsu’s *God and Man in the Koran*”, *Islamic Studies*, Vol. 5, No. 2, Islamabad: Islamic Research Institute, 1966, p. 221.

1967 年

Katakura, Motoko, “Toshihiko Izutsu, *Ethico-Religious Concepts in the Qur’ān*”, *Contemporary Religions in Japan*, Vol. 8, No. 2, Tokyo: International Institute for the Study of Religions, 1967, p. 186.

Marmura, Michael E., “Toshihiko Izutsu, *Ethico-Religious Concepts in the Qur’ān*”, *Dialogue*, Vol. 6, No. 2, Quebec: Canadian Philosophical Association, 1967, p. 246.

Paret, R[udi], “Toshihiko Izutsu, *Ethico-Religious Concepts in the Qur’ān*”, *Die Welt des Islams*, Vol. 11, Leiden: E.J. Brill, 1967, p. 234.

Watt, W. Montgomery, “Izutsu, T., *God and Man in the Koran*, and *The Concept of Belief in Islamic Theology*”, *Journal of Semitic Studies*, Vol. 12, Oxford: Oxford University Press, 1967, p. 155.

1968 年

Burton, John, “Toshihiko Izutsu.: *Ethico-Religious Concepts in the Qur’ān*”, *Bulletin of the School of Oriental and African Studies*, Vol. 31, No. 2, London: University of London, 1968, p. 391.

Ritchie, J. M., “Toshihiko Izutsu: *Ethico-Religious Concepts in the Qur’ān*”, *Scottish Journal of Theology*, Vol. 21, No. 4, Edinburgh: Scottish Academic Press, 1968, p. 492.

1970年

黒田壽郎「意味論的分析の道——井筒俊彦教授の場合」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第1号、慶應義塾大学言語文化研究所、1970年2月、pp. 103–125.

Partin, Harry B, “Semantics of the Qur’ān: A consideration of Izutsu’s studies”, *History of Religions*, Vol. 9, No. 4, Chicago: University of Chicago Press, 1970, p. 358.

1973年

Ahmad, Aziz, “Book Review: Toshihiko Izutsu. *Ethico-Religious Concepts in the Qur’ān*. Montreal”, *International Journal of Comparative Sociology*, Vol. 14, No. 3, Leiden: E.J. Brill, 1973, p. 288.

1975年

黒田壽郎「第二の大拙を目指す思想家——井筒俊彦君」『三田評論』第74号、慶應義塾大学出版会、1975年1月、pp. 13–14.

1976年

中村廣治郎「[ブック・スタンド] 井筒俊彦著『イスラーム思想史』」『読売新聞』(朝)、1976年1月5日、p. 8.

今道友信「イスラームへの知的誘ひ——井筒俊彦『イスラーム思想史』」『思想』第621号、岩波書店、1976年3月、pp. 425–434.

柏木英彦「書評 井筒俊彦著『イスラーム思想史』」『中世思想研究』第18号、中世哲学学会、1976年10月、pp. 180–184.

1978年

[anonymous], “Towards a Philosophy of Zen Buddhism, Toshihiko Izutsu”, *The Middle Way*, Vol. 50, London: Buddhist Society UK, 1978, p. 90.

1979年

伊東俊太郎「書評 井筒俊彦著『神秘哲学』第一・二部——えつらん室」『朝日新聞東京』(朝)、1979年2月11日、p. 9.

増永俊一「イスラーム学者 井筒俊彦さんと1時間 イラン革命をめぐる」『読売新聞』(夕)、1979年3月12日、p. 9.

1980年

Kolb, David A, “Toshihiko Izutsu, *Toward a Philosophy of Zen Buddhism*”, *Philosophy East and West*, Vol. 30, No. 4, Honolulu: University Press of Hawaii, 1980, pp. 537–540.

1981年

竹下肥潤「『イスラーム哲学の原像』井筒俊彦著——こころの書から」『朝日新聞東京』(夕)、1981年1月13日、p. 11.

池田彌三郎「井筒俊彦君との交際」『手紙のたのしみ』文藝春秋、1981年9月、pp. 32–43.

1982年

[無署名]「井筒俊彦の大きさ発見 安易な復古ムードに知性」『読売新聞』（夕）、1982年2月22日、p.9.

1983年

[無署名]「東西の哲学を視野に」『朝日新聞東京』（朝）、1983年1月4日、p.11.
荒川幾男「ポスト・ブックレビュー 東洋哲学を構造的に図式化して解明 井筒俊彦『意識と本質 精神的東洋を求めて』岩波書店『週刊ポスト』710号、小学館、1983年7月、p.88.

1984年

[鎌田繁]「[新刊紹介]井筒俊彦『イスラーム哲学の原像』、井筒俊彦『コーランを読む』『東京大学宗教学年報』第1号、1984年2月、pp.102-103.
竹下政孝「書評『コーランを読む』井筒俊彦著」『文明』第41号、東海大学文明研究所、1984年6月、pp.84-91.
Eaton, Hasan, “Reflections on Izutsu’s *Sufism and Taoism*”, *Islamic Quarterly*, Vol. 28, No. 4, London: Islamic Cultural Centre, 1984, pp. 250–256.

1985年

小林敬和「[精神世界の旅] = 33 東洋思想に可能性（連載）」『読売新聞』（夕）、1985年5月1日、p.8.
小林敬和「[精神世界の旅] = 34 完 東洋思想読み直す（連載）」『読売新聞』（夕）、1985年5月2日、p.5.
増永俊一「[Front 5] 越境する思想家 = 3 井筒俊彦さん（連載）」『読売新聞』（夕）、1985年11月27日、p.7.

1986年

五十嵐一「書評 『意味の深みへ——東洋哲学の水位』井筒俊彦」『文明』第48号、東海大学文明研究所、1986年1月、pp.85-92.
鎌田繁「[新刊紹介]井筒俊彦『意味の深みへ——東洋哲学の水位』」『東京大学宗教学年報』第4号、1986年2月、p.118.
鎌田繁「[新刊紹介]井筒俊彦『イスマイル派「暗殺団」——アラムート城砦のミュトスと神話——』上・下」『東京大学宗教学年報』第4号、1986年2月、p.136.
鶴岡賀雄「[新刊紹介]井筒俊彦対談集『叡知の台座』」『東京大学宗教学年報』第4号、1986年2月、pp.117-118.
Wu, Kuang-Ming, “Toshihiko Izutsu, *Sufism and Taoism: A Comparative Study of Key Philosophical Concepts*”, *Journal of Religion*, Vol. 66, No. 3, Chicago: University of Chicago Press, 1986, p. 358.

1987年

神谷幹夫「井筒俊彦の「ことば」について：ことばは経験だろうか」『北星学園大学文学部北星論集』第25号、北星学園大学、1987年3月、pp.308-301.

丸山圭三郎『生命と過剰』河出書房新社、1987年11月。

Takeshita, Masataka, “Japanese Works of Toshihiko Izutsu with Special Reference to *Reading the Koran*”, *Annals of Japan Association for Middle East Studies*, Vol. 2, Kyoto: Japan Association for Middle East Studies, 1987, pp. 491–503.

1989年

牧野信也「井筒イスラーム学の全体像と『マホメット』」『マホメット』講談社、1989年5月、pp. 118–141.

1990年

黒田壽郎「井筒俊彦——意味論的分析の可能性」『理想』第646号、理想社、1990年7月、pp. 13–20.

細萱秀太郎「東洋の深層から——井筒俊彦」『魂の原景をもとめて——宗教を現代に問う』朝日新聞社、1990年12月、pp. 261–296.

1991年

牧野信也「解説」『イスラーム思想史』中央公論社、1991年3月、pp. 493–500.

大江健三郎「井筒宇宙の周縁で 『超越のことば』井筒俊彦を読む」『新潮』第88巻第8号、新潮社、1991年8月、pp. 178–185.

川村湊「書評 文庫の地平線『イスラーム文化』岩波文庫」『東京人』第47号、都市出版、1991年9月、pp. 148–149.

砂山清「A E R Aリポート 宮崎市定・井筒俊彦 全集になる「最後の大学者」2人 活字離れ時代に挑戦する世界的スケールの東洋学」『A E R A』第45号、朝日新聞出版、1991年10月、p. 73.

関根正雄「井筒俊彦氏のこと」『井筒俊彦著作集』第1巻月報第1回、中央公論社、1991年10月、pp. 1–4.

中沢新一「創造の出発点」『井筒俊彦著作集』第1巻月報第1回、中央公論社、1991年10月、pp. 5–8.

丸山圭三郎「書評 本 井筒哲学における東西の出会い」『井筒俊彦著作集 第1巻』中央公論社『新潮』第88巻第12号、新潮社、1991年12月、pp. 268–271.

安岡章太郎「あの頃の井筒先生」『井筒俊彦著作集』第8巻月報第2回、中央公論社、1991年12月、pp. 1–2.

日野啓三「言い難く豊かな砂漠の人」『井筒俊彦著作集』第8巻月報第2回、中央公論社、1991年12月、pp. 3–5.

丸山圭三郎「<読む>ということ」『井筒俊彦著作集』第8巻月報第2回、中央公論社、1991年12月、pp. 5–8.

1992年

丸山圭三郎「二十一世紀の<知>にむけて」『生の円環運動』紀伊國屋書店、1992年2月、pp. 214–273.

中村廣治郎「コーランと翻訳」『井筒俊彦著作集』第7巻月報第3回、中央公論社、1992

- 年 2 月、pp. 1-5.
- 立花隆「職業選択を誤らなかった話」『井筒俊彦著作集』第 7 卷月報第 3 回、中央公論社、1992 年 2 月、pp. 5-8.
- 森本和夫「書評 『神秘哲学』を読んで 『井筒俊彦著作集 (1) 神秘哲学』(デュアル・クリティック)」『早稲田文学』第 190 号、早稲田文学会、1992 年 3 月、pp. 62-66.
- 丹生谷貴志「書評 約束された往還 『井筒俊彦著作集 (1) 神秘哲学』(デュアル・クリティック)」『早稲田文学』第 190 号、早稲田文学会、1992 年 3 月、pp. 67-71.
- 河合隼雄「井筒哲学と心理療法」『井筒俊彦著作集』第 4 卷月報第 4 回、中央公論社、1992 年 4 月、pp. 1-2.
- 牧野信也「師としての井筒俊彦先生」『井筒俊彦著作集』第 4 卷月報第 4 回、中央公論社、1992 年 4 月、pp. 3-6.
- 村上博子「朝にも夕にも感謝を」『井筒俊彦著作集』第 4 卷月報第 4 回、中央公論社、1992 年 4 月、pp. 7-8.
- 江藤淳「井筒先生の言語学概論」『井筒俊彦著作集』第 3 卷月報第 5 回、中央公論社、1992 年 6 月 pp. 1-4.
- 白井浩司「時代への批判者」『井筒俊彦著作集』第 3 卷月報第 5 回、中央公論社、1992 年 6 月、pp. 5-7.
- 伊東俊太郎「井筒俊彦先生のこと」『井筒俊彦著作集』第 3 卷月報第 5 回、中央公論社、1992 年 6 月、pp. 7-8.
- 大橋良介「井筒哲学をどう読むか」『井筒俊彦著作集』第 9 卷月報第 6 回、中央公論社、1992 年 8 月、pp. 1-4.
- 山折哲雄「井筒訳『コーラン』の文体」『井筒俊彦著作集』第 9 卷月報第 6 回、中央公論社、1992 年 8 月、pp. 4-6.
- 松原秀一「つかずはなれず四十年」『井筒俊彦著作集』第 9 卷月報第 6 回、中央公論社、1992 年 8 月、pp. 7-8.
- 池田晶子「『意識と本質』を読む」『井筒俊彦著作集』第 6 卷月報第 7 回、中央公論社、1992 年 10 月、pp. 1-5.
- 矢島文夫「二つの切っ掛け」『井筒俊彦著作集』第 6 卷月報第 7 回、中央公論社、1992 年 10 月、pp. 5-6.
- 松長有慶「井筒のマンダラ学の炯眼」『井筒俊彦著作集』第 6 卷月報第 7 回、中央公論社、1992 年 10 月、pp. 6-8.
- 牧野信也「井筒哲学の特質をめぐって—その主題と方法」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第 24 号、慶應義塾大学言語文化研究所、1992 年 12 月、pp. 49-57.
- 佐々木力「科学の深層構造」『井筒俊彦著作集』第 5 卷月報第 8 回、中央公論社、1992 年 12 月、pp. 1-5.
- 細萱秀太郎「「光源」としての井筒東洋哲学」『井筒俊彦著作集』第 5 卷月報第 8 回、中央公論社、1992 年 12 月、pp. 5-7.
- 松本耿郎「井筒先生と『アラビア思想史』」『井筒俊彦著作集』第 5 卷月報第 8 回、中央公論社、1992 年 12 月、pp. 7-8.

1993年

- 丸山圭三郎「今世紀の偉大な哲人——井筒俊彦先生を悼む」『朝日新聞東京』（朝）、1993年1月9日、p. 5.
- 河合隼雄「その碩学 筋金入りだった 井筒俊彦先生を悼む」『読売新聞東京』（夕）、1993年1月11日、p. 12.
- 砂山清「AERAレポート・追悼 イスラム学者逝く 30余国語駆使し東西の哲学を体系化 世界的碩学が7日、世を去った。78歳。その思想が求められる中で」『AERA』朝日新聞出版社、1993年1月19日、p. 62.
- 大江健三郎「(上)東洋・西洋の統合 井筒俊彦氏 「森のバロック」」『朝日新聞東京』（夕）、1993年1月26日、p. 15.
- 井筒豊子「あとがきに代えて」『意識の形而上学：『大乘起信論』の哲学：東洋哲学覚書』中央公論社、1993年3月、pp. 186-197.
- 司馬遼太郎「アラベスク——井筒俊彦氏を悼む」『中央公論』第108巻第4号、中央公論社、1993年3月、pp. 238-248.
- 中沢新一「歴史とトランス——井筒俊彦先生のしぐさの記憶」『中央公論 文芸特集』第10巻第1号、中央公論社、1993年3月、pp. 208-215.
- 牧野信也「師よ、永遠に生き給わんことを」『三田評論』第946号、慶應義塾大学出版会、1993年4月。
- 山内昌之「書評 意識の形而上学——『大乘起信論』の哲学 井筒俊彦著」『朝日新聞東京』（朝）、1993年4月11日、p. 10.
- 黒田壽郎「井筒先生のアラブ・イスラーム研究」『井筒俊彦著作集』第2巻月報第9回、中央公論社、1993年4月、pp. 1-4.
- 門脇佳吉「井筒先生の風貌と思想の源泉」『井筒俊彦著作集』第2巻月報第9回、中央公論社、1993年4月、pp. 5-7.
- 丸山圭三郎「追悼 井筒俊彦先生」『井筒俊彦著作集』第2巻月報第9回、中央公論社、1993年4月、pp. 7-8.
- 司馬遼太郎「アラベスク——井筒俊彦氏を悼む」『井筒俊彦著作集』第2巻月報特別付録、中央公論社、1993年4月、pp. 1-9.
- 柏木英彦「遠い日の井筒先生」『井筒俊彦著作集』第10巻月報第10回、中央公論社、1993年4月、pp. 1-2.
- 高木紳元「乾坤は経籍の箱」『井筒俊彦著作集』第10巻月報第10回、中央公論社、1993年4月、pp. 2-4.
- 今道友信「少年時からの展景の中で」『井筒俊彦著作集』第10巻月報第10回、中央公論社、1993年4月、pp. 4-6.
- 佐伯彰一「求む、井筒俊彦伝——ポリグロットの素顔——」『井筒俊彦著作集』第10巻月報第10回、中央公論社、1993年4月、pp. 6-8.
- 柏木弘雄「意味分節理論と仏教学——井筒俊彦『意識の形而上学』を巡って」『日本仏教学会年報』第59号、日本仏教学会西部事務所、1993年5月、pp. 297-308.
- 柳瀬睦男「井筒氏の思い出」『井筒俊彦著作集』第11巻月報第11回、中央公論社、1993年6月、pp. 1-2.

- プールジャヴァーディー、ナスロッター「井筒先生との最後の会見（1）」岩見隆・松本耿郎共訳、『井筒俊彦著作集』第11巻月報第11回、中央公論社、1993年6月、pp.2-8.
- 長尾雅人「井筒さんの『起信論』哲学」『井筒俊彦著作集』別巻月報第12回、中央公論社、1993年8月、pp.1-5.
- 福永光司「井筒俊彦先生とわたくし」『井筒俊彦著作集』別巻月報第12回、中央公論社、1993年8月、pp.5-7.
- 森本公誠「井筒先生を東大寺にお迎えして」『井筒俊彦著作集』別巻月報第12回、中央公論社、1993年8月、pp.7-9.
- プールジャヴァーディー、ナスロッター「井筒先生との最後の会見（2）」岩見隆・松本耿郎共訳、『井筒俊彦著作集』別巻月報第12回、中央公論社、1993年8月、pp.9-12.
- 岩見隆編「著作目録」『井筒俊彦著作集』別巻、中央公論社、1993年8月、pp.401-414.
- 海野厚「書評『意識の形而上学——『大乘起信論』の哲学』井筒俊彦」『教養論叢』第94号、慶應義塾大学法学部法学研究会、1993年9月、pp.9-14.
- 松本健一「書評 日本がわかる100冊 近代日本の「知の遺産」 その国の言語を読むことから 井筒俊彦『イスラーム思想史』中央公論社」『月刊ASAHI』朝日新聞社、1993年10月、pp.270-271.
- 竹下政孝「井筒俊彦のイスラーム学における業績」『イスラム世界』第42号、日本イスラム協会、1993年12月、pp.159-164.

1995年

- 牧野信也「井筒俊彦」『AERA MOOK 哲学がわかる』朝日新聞社、1995年2月、pp.154-155.

1996年

- 前田保「滝沢克己と井筒俊彦：その言語哲学の比較」『比較思想研究』第23号、大正大学、1996年3月、pp.91-97.

1998年

- 鎌田繁「井筒俊彦」『岩波哲学・思想事典』廣松渉他編、岩波書店、1998年3月、pp.84-85.
- 松本耿郎「<書評・新刊紹介>*Consciousness and Reality, Studies in Memory of Toshibiko Izutsu*. Edited by Sayyid Jalal al-Dīn Ashtiyani, Hideichi Matsubara, Takashi Iwami, Akiro Matsumoto. Iwanami Shoten, Publishers, Tokyo, 1998, p.472: 『意識と実在・井筒俊彦記念論集』『キリスト教文化研究所紀要』第14巻第1号、英知大学、1998年3月、pp.219-223.
- Lawson, Todd, “*Creation and the Timeless Order of Things: Essays in Islamic Mystical Philosophy*”, *Journal of Ecumenical Studies*, Vol. 35, No. 1, Pennsylvania: University of Pennsylvania Press, 1998, p. 543.
- Sayyid Jalāl al-Dīn Āshtiyānī, Hideichi Matsubara, Takashi Iwami, and Akiro Matsumoto (editors), *Consciousness and Reality: Studies in Memory of Toshibiko Izutsu*, Tokyo: Iwanami Shoten, 1998.
- Nasr, Seyyed Hossein, “The Quranic Commentaries of Mullā Ṣadra”, *Consciousness and Reality: Studies in Memory of Toshibiko Izutsu*, Tokyo: Iwanami Shoten, 1998, pp. 45-58.
- Ardalan, Nader, “The Paradise Garden Paradigm”, *Consciousness and Reality: Studies in Memory of Toshibiko Izutsu*, Tokyo: Iwanami Shoten, 1998, pp. 97-127.

- Jahanbakhsh, Forough, “The Pīr-Murīd Relationship in the Thought of ‘Ayn al-Qudāt Hamadānī”, *Consciousness and Reality: Studies in Memory of Toshibiko Izutsu*, Tokyo: Iwanami Shoten, 1998, pp. 129–147.
- Taylor, Mark C., “Refiguring Postmodern Times”, *Consciousness and Reality: Studies in Memory of Toshibiko Izutsu*, Tokyo: Iwanami Shoten, 1998, pp. 149–173.
- Hillman, James, “In the Gardens : a Psychological Memoir”, *Consciousness and Reality: Studies in Memory of Toshibiko Izutsu*, Tokyo: Iwanami Shoten, 1998, pp. 175–182.
- Makino, Shinya, “On the Originality of ‘IZUTSU’ Oriental Philosophy”, *Consciousness and Reality: Studies in Memory of Toshibiko Izutsu*, Tokyo: Iwanami Shoten, 1998, pp. 251–258.
- Jambet, Christian, “Le Soufisme entre Louis Massignon et Henry Corbin”, *Consciousness and Reality: Studies in Memory of Toshibiko Izutsu*, Tokyo: Iwanami Shoten, 1998, pp. 259–272.
- Kamiya, Mikio, “La Révélation coranique et la Gnose islamique”, *Consciousness and Reality: Studies in Memory of Toshibiko Izutsu*, Tokyo: Iwanami Shoten, 1998, pp. 273–283.
- Pourjavady, Nasrollah, “Ḥallāj dar *Sawānīh*-i Aḥmad-i Ghazālī (Hallāj in the Sawānīh of Ahmad Ghazālī)”, *Consciousness and Reality: Studies in Memory of Toshibiko Izutsu*, Tokyo: Iwanami Shoten, 1998, pp. 285–294.
- Sawai, Yoshitsugu, “The Structure of Consciousness in Śankara’s Philosophy”, *Consciousness and Reality: Studies in Memory of Toshibiko Izutsu*, Tokyo: Iwanami Shoten, 1998, pp. 323–340.
- Chittick, William C., “On Sufi Psychology: a Debate between the Soul and the Spirit”, *Consciousness and Reality: Studies in Memory of Toshibiko Izutsu*, Tokyo: Iwanami Shoten, 1998, pp. 341–366.
- Matsumoto, Akiro, “Unity of Ontology and Epistemology in Qaisari’s Philosophy”, *Consciousness and Reality: Studies in Memory of Toshibiko Izutsu*, Tokyo: Iwanami Shoten, 1998, pp. 367–386.
- Landolt, Hermann, “‘Azīz-i Nasafī and the Essence-Existence Debate”, *Consciousness and Reality: Studies in Memory of Toshibiko Izutsu*, Tokyo: Iwanami Shoten, 1998, pp. 387–395.
- Kaviani, Shiva, “Suhrawardi, Philosopher or Mystic?: Golden Triangle of his Worldview”, *Consciousness and Reality: Studies in Memory of Toshibiko Izutsu*, Tokyo: Iwanami Shoten, 1998, pp. 423–437.
- Iwami, Takashi, "Bibliography of Toshihiko Izutsu's Writings", *Consciousness and Reality : Studies in Memory of Toshibiko Izutsu*, Iwanami Shoten, 1998, pp.441–449
- Iwami, Takashi, "[Appendix] Catalogue of Lithographed Books of Iran in the Library of Toshihiko Izutsu", *Consciousness and Reality : Studies in Memory of Toshibiko Izutsu*, Iwanami Shoten, 1998, pp.451–469.

1999 年

松原秀一 「<随筆>井筒先生の書齋」『三田文学』第 78 卷第 59 号、三田文学会、1999 年 11 月、pp. 162–164.

2000 年

Sayyid Jalāl al-Dīn Āshṭiyānī, Hideichi Matsubara, Takashi Iwami, and Akiro Matsumoto (editors), *Consciousness and Reality: Studies in Memory of Toshibiko Izutsu Studies*, (Islamic Philosophy, Theology and Science, Vol. 38), Leiden, The Netherlands: Brill, 2000. * 1998 年の井筒追悼論文集と同内

容。

2001 年

- 池田晶子「情熱の形而上学」『意識の形而上学：東洋哲学覚書：『大乘起信論』の哲学』中央公論新社、2001年9月、pp.161–168.
- 西平直「東洋思想と人間形成:井筒俊彦の理論地平から」『教育哲学研究』第84号、教育哲学学会、2001年11月、pp.19–37.
- [Anjuman-i Āthār va Mafākhir-i Farhangī], *Zindigīnāmab va kbidmāt-i 'ilmī va farhangī-yi Prūfīsūr Tūshihikū Īzūtsū*, Tīhrān: Anjuman-i Āthār va Mafākhir-i Farhangī, 20 Isfandmāh 1379AHs. (*Biography and Academic Life of the Late Toshihiko Izutsu 1914-1993*, Tehran: Society for the Appreciation of Cultural Works and Dignitaries, March 2001)
- Muḥaqqiq, Mahdī [Mehdi Mohaghegh], "Āftāb-i khāvarī: Tūshihikū Īzūtsū, *Zindigīnāmab va kbidmāt-i 'ilmī va farhangī-yi Prūfīsūr Tūshihikū Īzūtsū*, Tīhrān: Anjuman-i Āthār va Mafākhir-i Farhangī, 20 Isfandmāh 1379AHs, 1914–1993", pp.7–32.
- Pūrvavādī, Naṣrullāh [Nasrollah Pourjavady], "Ākharīn didār bā Prūfīsūr Īzūtsū", *Zindigīnāmab va kbidmāt-i 'ilmī va farhangī-yi Prūfīsūr Tūshihikū Īzūtsū*, Tīhrān: Anjuman-i Āthār va Mafākhir-i Farhangī, 20 Isfandmāh 1379AHs, pp.33–58.
- Khurramshāhī, Bahā' al-Dīn, "Darguzasht-i Prūfīsūr Īzūtsū", *Zindigīnāmab va kbidmāt-i 'ilmī va farhangī-yi Prūfīsūr Tūshihikū Īzūtsū*, Tīhrān: Anjuman-i Āthār va Mafākhir-i Farhangī, 20 Isfandmāh 1379AHs, pp.59–64.
- Anṣārī, Nūshāfarīn, "Dar sūk-i islāmshinās-i purāvāza-yī sharq: Tūshihikū Īzūtsū ,191–1993", *Zindigīnāmab va kbidmāt-i 'ilmī va farhangī-yi Prūfīsūr Tūshihikū Īzūtsū*, Tīhrān: Anjuman-i Āthār va Mafākhir-i Farhangī, 20 Isfandmāh 1379AHs, pp.65–74.
- [anonymous], "Īzūtsū ham raft", *Zindigīnāmab va kbidmāt-i 'ilmī va farhangī-yi Prūfīsūr Tūshihikū Īzūtsū*, Tīhrān: Anjuman-i Āthār va Mafākhir-i Farhangī, 20 Isfandmāh 1379AHs., pp.75–88.
- [anonymous] "Kitābshināsī-yī āthār-i Prūfīsūr Tūshihikū Īzūtsū", *Zindigīnāmab va kbidmāt-i 'ilmī va farhangī-yi Prūfīsūr Tūshihikū Īzūtsū*, Tīhrān: Anjuman-i Āthār va Mafākhir-i Farhangī, 20 Isfandmāh 1379AHs., pp.89–97.
- Landolt, Hermann, "Remembering Toshihiko Izutsu", *Zindigīnāmab va kbidmāt-i 'ilmī va farhangī-yi Prūfīsūr Tūshihikū Īzūtsū*, Tīhrān: Anjuman-i Āthār va Mafākhir-i Farhangī, 20 Isfandmāh 1379AHs, pp.1–11.

2002 年

- 山内昌之「東洋哲学の視座を得る」『読売新聞東京』（朝）、2002年4月22日、p.9.
- 山内継祐「「もう一つの一神教」理解のヒント——コーラン邦語訳で知られる泰斗・井筒俊彦氏の遺作に学ぶ勉強会サブノートから」『福音と社会』第41巻第3号、カトリック社会問題研究所、2002年6月、pp.14–29.
- 松原秀一・澤井義次「<KEIO Report>井筒俊彦 『老子』（英訳）の出版：「井筒ライブラリー・東洋哲学」第一巻の刊行に寄せて」『三田評論』第1048号、慶應義塾大学出版会、2002年7月、pp.106–107.

[無署名]「BOOKS 熟読・斜読・積読 『マホメット』井筒俊彦著—世界を揺るがし続ける沙漠の宗教の誕生」『ベルダ』第8巻第8号、ベストブック、2002年8月、p.73.
慶應義塾図書館編『井筒俊彦文庫目録 和漢書・洋書の部』慶應義塾図書館、2002年3月。

2003年

西平直「「無の思想」と子ども：「無の思想」を「教育の問い」の前に連れ出す試み ("No-Boundary" and "Childhood")」『近代教育フォーラム』第12巻、教育思想史学会、2003年9月、pp.1-12.*報告論文 Forum 1 人間形成における垂直軸の問題。
岡部美香「「非有」という視座」『近代教育フォーラム』第12巻、教育思想史学会、2003年9月、pp.21-28.*コメント論文 Forum 1 人間形成における垂直軸の問題。
江島宏隆「言語脱落と本質言語—井筒俊彦の「東洋哲学」とマラルメ」『奥羽大学文学部紀要』第15号、奥羽大学文学部、2003年12月、pp.77-88.
Keio University Library, ed., *Catalog of the Arabic and Persian books in the Library of Toshibiko Izutsu*, Tokyo: Keio University Library, 2003.

2004年

野元晋『井筒俊彦文庫目録アラビア語・ペルシア語図書部の部』の出版:慶應義塾図書館, 2003. xix+471頁『オリエント』第47巻第1号、日本オリエント学会、2004年9月、pp.164-169.
平尾行藏「資料紹介 慶應義塾図書館編・刊(非売品)『井筒俊彦文庫目録 和漢書・洋書の部(稿)』(2002年3月,[6],313p)『井筒俊彦文庫目録 アラビア語・ペルシア語の部』(2003年10月,19,470p)」『Medianet』第11号、慶應義塾大学メディアセンター本部、2004年10月、p.74.
新田義弘「知の自証性と世界の開現性—西田と井筒」『思想』第968号、岩波書店、2004年12月、pp.4-22.
永井晋「イマジナルの現象学」『思想』第968号、岩波書店、2004年12月、pp.23-39.
Schmidtke, Sabine, "*Consciousness and Reality: Studies in Memory of Toshibiko Izutsu*", *Der Islam*, Vol. 81, No. 2, Berlin: Walter de Gruyter GmbH, 2004, pp. 380-381.

2005年

鎌田繁「井筒俊彦」、『現代宗教事典』井上順孝編、弘文堂、2005年1月、pp.30-31.
安藤礼二「『意識と本質』(1983)井筒俊彦(1914-1993)—意味の深みへの探究」『現代思想』第33巻第7号、青土社、2005年6月、pp.210-213.
安藤礼二「アイデアの戦争—イラン革命から第二次世界大戦へ」『インターコミュニケーション』第54号、インターコミュニケーション、2005年8月、pp.70-76.

2006年

西村正身「井筒俊彦『アラビア語入門』のための付録」『作新学院大学紀要』第16号、作新学院大学、2006年3月、pp.21-119.
安藤礼二「大東亜共栄圏の哲学—大川周明と井筒俊彦」『アソシエ = Associé』第17号、御茶の水書房、2006年6月、pp.111-125.
安藤礼二「光の思想誌 第1回 百年の孤独」『大航海』第59号、新書館、2006年6月、

pp. 18–26.

安藤礼二「光の思想誌 第2回 元素のディオニュソス」『大航海』第60号、新書館、2006年9月、pp. 172–184.

澤井義次「新たな生命倫理への宗教学的視座」『宗教研究』第80巻第2号、日本宗教学会、2006年9月、pp. 247–266.

2007年

安藤礼二「光の思想誌 第3回 東方哲学(1)」『大航海』第61号、新書館、2007年1月、pp. 23–29.

永井晋「イマジナルの現象学」『現象学の転回——「顕現しないもの」に向けて』知泉書館、2007年3月、pp. 157–184.

安藤礼二「光の思想誌 第4回 東方哲学(2)」『大航海』第62号、新書館、2007年4月、pp. 201–207.

木田元「学び直す人のための教養案内 哲学の醍醐味が味わえる20冊」『中央公論』第122巻第5号、中央公論新社、2007年5月、pp. 184–197.

安藤礼二「光の思想誌 第5回 光と精霊の神学」『大航海』第63号、新書館、2007年7月、pp. 22–28.

池内恵「井筒俊彦の主要著作に見る日本的イスラーム理解」『日本研究』第36号、国際日本文化研究センター、2007年9月、pp. 109–120.

安藤礼二「光の思想誌 第6回 黙示録の獣(1)」『大航海』第64号、新書館、2007年10月、pp. 188–195.

池内恵「井筒俊彦のイスラーム思想史叙述の特徴——日本的イスラーム理解に及ぼした影響」『Cairo Conference on Japanese Studies カイロ・シンポジウム(2006)』国際日本文化研究センター、2007年12月、pp. 173–181.

al-Jihād, Hilāl Muḥammad, "Muqaddima al-mutarjim", Tūshihikū Īzūtsū, *Allāh wa-al-insān fī al-Qurʾān - ʿIlm dalāla al-ruʾya al-Qurʾāniyya li-al-ʿālam*, Bayrūt: al-Manẓama al-ʿArabiyya li-al-Tarjama, 2007, pp.9-18.

Arif, Syamsuddin, "Preserving the Semantic Structure of Islamic Key Terms and Concepts: Izutsu, al-Attas, and al-Raghib al-Isfahani?", *Islam & Science*, Vol. 5, No. 2, Pakistan: Center for Islam & Science, 2007, p. 107.

2008年

安藤礼二「第5章 戦争——井筒俊彦論」『近代論：危機の時代のアルシーヴ』NTT出版、2008年1月、pp. 239–285.

安藤礼二「光の思想誌 第7回 黙示録の獣(2)」『大航海』第65号、新書館、2008年1月、pp. 167–173.

鈴木孝夫・田中克彦「第1章 回想の言語学者たち」『言語学が輝いていた時代』岩波書店、2008年1月、pp. 1–68.

安藤礼二「光の思想誌 第8回 預言者的実存(1)」『大航海』第66号、新書館、2008年4月、pp. 205–211.

安藤礼二「光の思想誌 第9回 預言者的実存(2)」『大航海』第67号、新書館、2008年7月、pp. 191-197.

松原秀一「東洋哲学と西洋哲学の統合」『交詢雑誌』No.520、2008年9月、pp. 6-27.

若松英輔「小林秀雄と井筒俊彦—神秘的人間とその系譜」『三田文学』第87巻第95号、三田文学会、2008年10月、pp. 76-138.

Sawai, Yoshitsugu, "Editor's Essay: Izutsu's Creative "Reading" of Oriental Thought and Its Development", *The Structure of Oriental Philosophy: Collected Papers of the Eranos Conference*, volume 2, Tokyo: Keio University Press, 2008, pp. 215-223.

2009年

安藤礼二「光の思想誌 第10回 光の高原(I)」『大航海』第69号、新書館、2009年1月、pp. 170-177.

若松英輔「井筒俊彦—東洋への道程(イチネラリウム)」『三田文学』第88巻第96号、三田文学会、2009年1月、pp. 104-122.

安藤礼二「井筒俊彦の起源—西脇順三郎と折口信夫」『三田文学』第88巻第96号、三田文学会、2009年1月、pp. 124-131.

神谷幹夫「井筒俊彦の「ことば」とともに—「現実」は一つのテキストだ」『三田文学』第88巻第96号、三田文学会、2009年1月、pp. 154-162.

山折哲雄「[ラカン] 変奏」『三田文学』第88巻第96号、三田文学会、2009年1月、pp. 164-166.

高橋巖「井筒俊彦先生のこと」『三田文学』第88巻第96号、三田文学会、2009年1月、pp. 166-168.

松原秀一「井筒さんの渋い顔」『三田文学』第88巻第96号、三田文学会、2009年1月、pp. 168-173.

湯川豊「井筒「伝説」に魅せられて」『三田文学』第88巻第96号、三田文学会、2009年1月、pp. 173-175.

高山鉄男「パリの井筒先生」『三田文学』第88巻第96号、三田文学会、2009年1月、pp. 175-177.

澤井真「井筒俊彦のクルアーン解釈における“din”の概念」『文化』第72巻第3-4号、東北大学文学会、2009年3月、pp. 153-171.

安藤礼二「光の思想誌 第11回 光の光原(II)」『大航海』第70号、新書館、2009年4月、pp. 169-175.

池内恵「井筒俊彦の日本的イスラーム論」『アステイオン』第70号、阪急コミュニケーションズ、2009年4月、pp. 172-179.

鈴木孝夫「日本人は本が好き 読書と翻訳の罫」『文藝春秋 special』第3巻第2号、文藝春秋、2009年4月、pp. 118-123.

若松英輔「井筒俊彦—存在と神秘の形而上学(新連載・第1回) 詩人哲学者の誕生」『三田文学』第88巻第97号、三田文学会、2009年4月、pp. 174-194.

安藤礼二「光の思想誌 第12回・最終回 意味の深みへ」『大航海』第71号、新書館、2009年7月、pp. 164-173.

- 小野純一「無底の底：顕現と非顕現の根拠をめぐって」『知のエクスペディション：東洋と西洋の交差』司馬春英・渡辺明照編、北樹出版、2009年8月、pp. 52–62.
- 若松英輔「井筒俊彦——存在とコトバの神秘哲学（第3回）」『三田文学』第88巻第99号、三田文学会、2009年10月、pp. 190–215.
- 若松英輔「解説 詩と哲学の間——井筒俊彦の境涯」『読むと書く 井筒俊彦エッセイ集』慶應義塾大学出版会、2009年10月、pp. 605–622.
- 小杉泰「書評『読むと書く 井筒俊彦エッセイ集』井筒俊彦著 古今の哲学者と語った知的遍歴」『朝日新聞』（朝）、2009年11月22日、p. 15.
- 新田義弘「知の自証性と世界の開現性——西田幾多郎と井筒俊彦」『思惟の道としての現象学：超越論的媒体性と哲学の新たな方向』トランスビュー、2009年12月、pp. 143–176.
- 満原健「意味の発生の理論としての井筒俊彦分節理論」『日本の哲学』第10号、昭和堂、2009年12月、pp. 103–116.
- Sawai, Yoshitsugu, “The Structure of Reality in Izutsu’s Oriental Philosophy”, *Intellectual Discourse*, Vol. 17, No. 2, Malaysia: International Islamic University Malaysia Research Centre, 2009, pp. 129–145.
- Nakamura, Kojiro, “The Significance of Toshihiko Izutsu’s Legacy for Comparative Religion”, *Intellectual Discourse*, Vol. 17, No. 2, Malaysia: International Islamic University Malaysia Research Centre, 2009, pp. 147–158.
- Kamada, Shigeru, “The Place of Mullā Sadrā’s *Kitāb Al-Mashā’ir* in Izutsu’s Philosophy”, *Intellectual Discourse*, Vol. 17, No. 2, Malaysia: International Islamic University Malaysia Research Centre, 2009, pp. 159–172.
- Mohamed Aslam Haneef and Hafas Furqani, “Developing the Ethical Foundations of Islamic Economics: Benefitting from Toshihiko Izutsu”, *Intellectual Discourse*, Vol. 17, No. 2, Malaysia: International Islamic University Malaysia Research Centre, 2009, pp. 173–199.

2010年

- 若松英輔「井筒俊彦——存在とコトバの神秘哲学（第4回）ある同時代人と預言者論」『三田文学』第89巻第100号、三田文学会、2010年1月、pp. 134–155.
- 六光寺弦「書評 書物の森 井筒俊彦『読むと書く 井筒俊彦エッセイ集』慶應義塾大学出版会 視野の幅広さと先見性」『新潮45』第29巻第2号、新潮社、2010年2月、pp. 238–239.
- 中村廣治郎「フリッチョフ・シュオンと井筒俊彦」『宗教研究』第83巻第4号、日本宗教学会、2010年3月、pp. 1422–1423.
- 若松英輔「井筒俊彦——存在とコトバの神秘哲学（第5回）聖なるもの」『三田文学』第89巻第102号、三田文学会、2010年7月、pp. 186–208.
- 若松英輔「井筒俊彦と白川静 コトバ、あるいは文字」『月刊百科』第574号、平凡社、2010年8月、pp. 4–9.
- 若松英輔「井筒俊彦——存在とコトバの神秘哲学（最終回）言語学概論」『三田文学』第89巻第103号、三田文学会、2010年10月、pp. 118–139.
- 堀江聡「解題」『神秘哲学 ギリシアの部』慶應義塾大学出版会、2010年12月、pp. 527–537.
- 坂本勉「イスラーム学事始めの頃の井筒俊彦」『史学』第79巻第4号、三田史学会、2010

- 年 12 月、pp. 422–438.
- 杉田英明「前嶋信次『アラビアン・ナイト』原典訳への道」『史学』第 79 卷第 4 号、三田史学会、2010 年 12 月、pp. 439–452.
- 家島彦一「いま、なぜ前嶋信次と井筒俊彦か」『史学』第 79 卷第 4 号、三田史学会、2010 年 12 月、pp. 453–461.
- Ueno, Toshiya, “The Theory of Semantic Articulation in Izutsu Toshihiko’s Philosophy”, *The Bulletin of the Faculty of Representational Studies*, Vol. 11, Tokyo: Wako University. Faculty of Representational Studies, 2010, pp. 23–40.
- Thoha, Anis Malik, and others, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Kuala Lumpur: International Islamic University Malaysia Press, 2010.
- Sawai, Yoshitsugu, “The Structure of Reality in Izutsu’s Oriental Philosophy”, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The Legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Kuala Lumpur: International Islamic University Malaysia Press, 2010, pp. 1–16.
- Abdul Kabir Hussain Solihu, “The Linguistic Construction of Reality: Izutsu’s Semantic Hermeneutics of the Qur’ānic *Weltanschauung*”, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Kuala Lumpur: International Islamic University Malaysia Press, 2010, pp. 17–40.
- Kamada, Shigeru, “The Place of Mullā Sadrā’s *Kitāb Al-Mashā’ir* in Izutsu’s Philosophy”, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Kuala Lumpur: International Islamic University Malaysia Press, 2010, pp. 41–52.
- Halil Rahman Açar, “Qur’ānic Worldview Deserves More Research”, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Kuala Lumpur: International Islamic University Malaysia Press, 2010, pp. 53–62.
- Janan Izadi and Ahad Faramarz Gharamaleki, “Reconsidering Izutsu in a Post-Postmodern Framework”, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Kuala Lumpur: International Islamic University Malaysia Press, 2010, pp. 63–76.
- Muḥammad ibn Naṣr [Mohamed Ben Nasr], “Manhaj al-baḥṭh al-dalālī fī dirāsāt Īzūtsū al-Qur’āniyya wa al-ṣūfiyya (Semantic Methodology in Izutsu’s Qur’anic and Sufistic Studies)”, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Kuala Lumpur: International Islamic University Malaysia Press, 2010, pp. 77–98.
- Sawai, Makoto, “Izutsu’s Hermeneutical Perspectives of the Qur’ānic Interpretation”, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Kuala Lumpur: International Islamic University Malaysia Press, 2010, pp. 99–110.
- ‘Aliyya Riḍā Dād[Aliyya Reza Dad], “Zāhirat al-tarāduf bayn al-mufradāt al-Qur’āniyya fī ārā’i Tūshihikū Īzūtsū (The Phenomenon of Synonymy between the Qur’anic Vocabularies in Toshihiko Izutsu’s Thoughts)”, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Kuala Lumpur: International Islamic University Malaysia Press, 2010, pp. 111–136.
- Ibrahim Abu Bakar, “God and Man in the Works of Toshihiko Izutsu”, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Kuala Lumpur: International Islamic University Malaysia Press, 2010, pp. 137–156.
- Rizvi, Sajjad H., “Communicating Pure Consciousness Events: Using Izutsu to Address a Problem in

- the Philosophy of Mysticism”, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Kuala Lumpur: International Islamic University Malaysia Press, 2010, pp. 157–170.
- Nakamura, Kojiro, “The Significance of Izutsu’s Legacy for Comparative Religion”, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Kuala Lumpur: International Islamic University Malaysia Press, 2010, pp. 171–180.
- Thoha, Anis Malik, “Izutsu’s Approach to the Comparative Study of Religions: An Assessment of His Sufism and Taoism”, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Kuala Lumpur: International Islamic University Malaysia Press, 2010, pp. 181–190.
- Ibrahim Shogar, “Ethical Discourse in the Qur’an: An Analytical Study of the Term Hudā in Izutsu’s Conceptualization”, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Kuala Lumpur: International Islamic University Malaysia Press, 2010, pp. 191–206.
- Hafas Furqani and Mohamed Aslam Haneef, “Developing the Ethical Foundations of Islamic Economics: Toshihiko Izutsu’s Approach and Contribution”, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Kuala Lumpur: International Islamic University Malaysia Press, 2010, pp. 207–228.
- al-‘Ākūb, ‘Īsā ‘Alī [Eisa Ali Al-Akoub], “Marjī‘iyyāt taqrīr al-mafhūm ‘ind al-Ustādh Īzūtsū: Mafhūm “Allāh” namūdhajan (References of Establishing the Concept according to Professor Izutsu: The Concept “Allāh” as an Example)”, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Kuala Lumpur: International Islamic University Malaysia Press, 2010, pp. 229–250.
- Ahmad Moyi Gada and Isa Muhammad Maishanu, “An Assessment of Izutsu’s Understanding of the Concept of Allāh in His *God and Man in the Qur’an*”, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Kuala Lumpur: International Islamic University Malaysia Press, 2010, pp. 251–262.
- Atalay, Mehmet, “Between Orientalism and Islam: Shortcomings of Toshihiko Izutsu”, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Kuala Lumpur: International Islamic University Malaysia Press, 2010, pp. 263–276.
- Hussain Othman, “Unveiling the Concept of Man and Universe in the Classical Malay Islamic Texts. Using Izutsu’s Approach”, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Kuala Lumpur: International Islamic University Malaysia Press, 2010, pp. 277–292.
- Gökkir, Necmettin, “The Legacy of Toshihiko Izutsu in Turkey: Application of Semantics in Contemporary Qur’anic Studies”, *Japanese Contribution to Islamic Studies: The legacy of Toshihiko Izutsu Interpreted*, Kuala Lumpur: International Islamic University Malaysia Press, 2010, pp. 293–306.

2011 年

- 東アジア出版人会議編「書評 井筒俊彦『意識と本質——精神的東洋を求めて』」『東アジア人文書 100』みすず書房、2011 年 1 月、pp. 262–263.
- 鎌田繁「解題」『アラビア哲学 回教哲学』慶應義塾大学出版会、2011 年 2 月、pp.247–264.
- 満原健「井筒の意識論」『北陸宗教文化』第 24 号、北陸宗教文化学会、2011 年 3 月、pp. 73–89.
- 安藤礼二「雑報 5 回 偶然」『文学界』第 65 卷第 5 号、文藝春秋、2011 年 5 月、pp. 250–

258.

六光寺弦「書評 書物の森 井筒俊彦『アラビア哲学 回教哲学』慶應義塾大学出版会 初期イスラム思想の発展を辿る」『新潮 45』第 30 巻第 5 号、新潮社、2011 年 5 月、pp. 194–195.

若松英輔『井筒俊彦 叡知の哲学』慶應義塾大学出版会、2011 年 5 月。

中島岳志「書評 井筒俊彦 叡知の哲学 若松英輔著 思想界の巨人、「神」への対話」『朝日新聞』(朝)、2011 年 6 月 19 日、p. 15.

安藤礼二「書評 井筒俊彦、徹底的に「読む」人の創造的営為——若松英輔著『日本経済新聞』(朝)、2011 年 7 月 3 日、p. 20.

神谷幹夫「書評 若松英輔『井筒俊彦——叡知の哲学』」『三田文学』第 90 巻第 106 号、三田文学会、2011 年 7 月、pp. 236–238.

亀山郁夫「解題」『露西亜文学』慶應義塾大学出版会、2011 年 7 月、pp. 243–261.

中西寛「書評 Book Review 若松英輔『井筒俊彦 叡知の哲学』慶應義塾大学出版会 知られざる知の巨人、初の本格評伝」『週刊エコノミスト』2011 年 8 月 9 日号、毎日新聞社、2011 年 8 月、p. 58.

若松英輔「実在論——越知保夫と井筒俊彦」『神秘の夜の旅』トランスビュー、2011 年 8 月、pp. 110–144.

安藤礼二「大いなる森の人——大江健三郎論」『早稲田文学』第 4 号、早稲田文学会、2011 年 9 月、pp. 230–239.

2012 年

高橋巖・若松英輔「対談 死者、この不可視な実在：井筒俊彦をめぐって」『三田文学』第 91 巻第 108 号、三田文学会、2012 年 1 月、pp. 100–120.

葛西賢太「井筒俊彦の瞑想体験と東西思想の比較研究」『宗教研究』第 85 巻第 4 号、日本宗教学会、2012 年 3 月、pp. 962–964.

澤井義次「井筒俊彦の神秘主義論とその意味構造」『宗教研究』第 85 巻第 4 号、日本宗教学会、2012 年 3 月、pp. 1159–1160.

安藤礼二「表現のゼロ地点へ 三島由紀夫、大江健三郎、村上春樹と神秘哲学」『文学界』第 66 巻第 7 号、文藝春秋、2012 年 7 月、pp. 160–197.

得丸公明「井筒俊彦「分節」概念の誤り訂正と鈴木言語学の発展的継承」『鈴木孝夫の世界——ことば・文化・自然——』第 4 集、鈴木孝夫研究会編、富山房インターナショナル、2012 年 10 月。

坂本勉・松原秀一編『井筒俊彦とイスラーム：回想と書評』慶應義塾大学出版会、2012 年 10 月。

坂本勉「序——イスラーム学事始めの頃の井筒俊彦」『井筒俊彦とイスラーム——回想と書評』慶應義塾大学出版会、2012 年 10 月、pp. 1–44.

黒田壽郎・インタビュアー：湯川武「多元的文化への偏見のない関心——井筒俊彦を引き継ぐために」『井筒俊彦とイスラーム——回想と書評』慶應義塾大学出版会、2012 年 10 月、pp. 47–80.

岩見隆・インタビュアー：高田康一・尾崎貴久子「鎌倉、軽井沢、テヘラン」『井筒俊彦と

- イスラーム——回想と書評』、慶應義塾大学出版会、2012年10月、pp. 81–136.
- 松本耿郎・インタビュアー：野元晋「共生の思想を模索する」『井筒俊彦とイスラーム——回想と書評』慶應義塾大学出版会、2012年10月、pp. 137–187.
- ランドルト、ヘルマン、インタビュアー・翻訳：野元晋「井筒俊彦の知を求める旅——モントリオール、エラノス会議、そしてテヘラン」『井筒俊彦とイスラーム——回想と書評』、慶應義塾大学出版会、2012年10月、pp. 189–239.
- 鈴木孝夫・インタビュアー：松原秀一「井筒俊彦の本質直観」『井筒俊彦とイスラーム——回想と書評』、慶應義塾大学出版会、2012年10月、pp. 241–293.
- 大河原知樹『『アラビア語入門』——「井筒言語学」の曙光』『井筒俊彦とイスラーム——回想と書評』慶應義塾大学出版会、2012年10月、pp. 297–309.
- 後藤明『『イスラーム生誕』——ムハンマド伝をめぐって』『井筒俊彦とイスラーム——回想と書評』慶應義塾大学出版会、2012年10月、pp. 311–320.
- 大川玲子『『コーラン』と『コーランを読む』——コトバの深奥へ』『井筒俊彦とイスラーム——回想と書評』慶應義塾大学出版会、2012年10月、pp. 321–331.
- 牧野信也『『意味の構造』——意味論的分析によるクルアーン読解』『井筒俊彦とイスラーム——回想と書評』慶應義塾大学出版会、2012年10月、pp. 332–342.
- 長谷部史彦『『イスラーム文化』——雄弁な啓蒙と呑み込まれた言葉』『井筒俊彦とイスラーム——回想と書評』慶應義塾大学出版会、2012年10月、pp. 343–348.
- 塩尻和子『『イスラーム思想史』——沙漠の思想か共生の思想か』『井筒俊彦とイスラーム——回想と書評』慶應義塾大学出版会、2012年10月、pp. 349–360.
- 野元晋『『イスラーム哲学の原像』——神秘主義と哲学の融合、そして「東洋」をめぐって』『井筒俊彦とイスラーム——回想と書評』慶應義塾大学出版会、2012年10月、pp. 361–377.
- 鎌田繁『『存在認識の道』井筒東洋哲学を支えるもの』『井筒俊彦とイスラーム——回想と書評』慶應義塾大学出版会、2012年10月、pp. 379–388.
- 藤井守男『『ルーミー語録』——その意義をめぐって』『井筒俊彦とイスラーム——回想と書評』慶應義塾大学出版会、2012年10月、pp. 389–398.
- 谷寿美『『ロシア的人間』——全一的双面性の洞見者』『井筒俊彦とイスラーム——回想と書評』慶應義塾大学出版会、2012年10月、pp. 399–414.
- 市川裕『『超越のことば』——自我滅却の哲学のゆくえ』『井筒俊彦とイスラーム——回想と書評』慶應義塾大学出版会、2012年10月、pp. 415–424.
- 若松英輔『『神秘哲学』と『意識と本質』——二つの主著』『井筒俊彦とイスラーム——回想と書評』慶應義塾大学出版会、2012年10月、pp. 425–441.
- 若松英輔「『死者論』を読む」『死者との対話』、トランスビュー、2012年11月、pp. 88–91.
- 内記洸「表現についての試論：井筒俊彦『意識と本質』から見る親鸞」『現代と親鸞』第25号、親鸞仏教センター、2012年12月、pp. 31–66.
- Albayrak, İsmail, “The Reception of Toshihiko Izutsu’s Qur’anic Studies in the Muslim World: With Special Reference to Turkish Qur’anic Scholarship”, *Journal of Qur’anic Studies*, Vol. 14, No. 1, Edinburgh: Edinburgh University Press, 2012, pp. 73–76.
- Ueno, Toshiya, “Toward a Trans-Local Encounter within Philosophy: Gilles Deleuze and Toshihiko Izutsu”, *The Bulletin of the Faculty of Representational Studies*, Vol. 13, Tokyo: Wako University. Faculty

of Representational Studies, 2012, pp. 27–40.

2013 年

- 濱田侑子「第四章 第二世代・理性から感性へ 第1節 比較哲学の試み——川田熊太郎、中村元、井筒俊彦」『入門近代日本思想史』筑摩書房、2013年2月、pp. 258–272.
- 若松英輔「解説 「読む」という秘儀—内的テキストの顕現」『コーランを読む』、岩波書店、2013年2月、pp.401–412。
- 北尾克三郎「井筒俊彦と空海：言語哲学の接点」『密教メッセージ』第18号、密教21フォーラム事務局、2013年3月、pp. 41–53.
- ロペス・パソス、ファン・ホセ「井筒俊彦における禅思想とその理解」『宗教研究』第86巻第4号、日本宗教学会、2013年3月、pp. 1061–1062.
- 師茂樹「井筒俊彦の「深層意識的言語哲学」をめぐる」『Samgha Japan』第13号、サンガ、2013年3月、pp. 129–139.
- 若松英輔「東洋論：中村元と井筒俊彦」『比較思想研究』第40号、比較思想学会、2013年3月、pp. 18–27.
- 山村修「アラビア語とイスラームとの切っても切れぬ関係——井筒俊彦『イスラーム生誕』『〈狐〉が選んだ入門書』筑摩書房、2013年7月、pp. 172–179.
- 立花隆「回教という宗教の秘密＝音楽性」『井筒俊彦全集』第1巻月報第1号、慶應義塾大学出版会、2013年9月、pp. 1–3.
- 中沢新一「馬上の若武者」『井筒俊彦全集』第1巻月報第1号、慶應義塾大学出版会、2013年9月、pp. 4–5.
- 中村廣治郎「私の井筒俊彦先生」『井筒俊彦全集』第1巻月報第1号、慶應義塾大学出版会、2013年9月、pp. 6–8.
- 若松英輔「中東の動乱×井筒俊彦」『読売新聞東京』（朝）、2013年10月8日、文化蘭。
- 安藤礼二「ディオニュソスの人間の肖像」『井筒俊彦全集』第2巻月報第2号、慶應義塾大学出版会、2013年10月、pp. 1–3.
- 高橋巖「向上道と向下道」『井筒俊彦全集』第2巻月報第2号、慶應義塾大学出版会、2013年10月、pp. 4–6.
- 納富信留「プラトンの神秘道——井筒の「東洋」発見——」『井筒俊彦全集』第2巻月報第2号、慶應義塾大学出版会、2013年10月、pp. 6–8.
- 若松英輔「さまざまなる「東洋」——岡倉天心と井筒俊彦」『岡倉天心『茶の本』を読む』岩波書店、2013年12月、pp. 163–192.

2014 年

- 西平直「II 禅の無心 第五章 井筒俊彦の禅哲学——禅の無心の哲学的検討」『無心のダイナミズム：「しなやかさ」の系譜』岩波書店、2014年1月、pp. 58–108.
- 野平宗弘「解題」『禅仏教の哲学に向けて』ふねうま舎、2014年1月、pp. 343–357.
- 野元晋「井筒俊彦の歿後二十年と生誕百年に——『井筒俊彦全集』の刊行に寄せて」『三田評論』第1174号、慶應義塾大学出版会、2014年1月、pp. 98–109.
- 頼住光子「解説 井筒俊彦と禅仏教の思想」『禅仏教の哲学に向けて』ふねうま舎、2014

- 年 1 月、pp. 359–370.
- 山城むつみ「人が死ぬ、そこに草が生える、それだけ」『井筒俊彦全集』第 3 卷月報第 3 号、慶應義塾大学出版会、2014 年 1 月、pp. 1–3.
- 沼野充義「ロシア文学に憑かれた人」『井筒俊彦全集』第 3 卷月報第 3 号、慶應義塾大学出版会、2014 年 1 月、pp. 4–6.
- 谷寿美「井筒先生とロシア的全一性」『井筒俊彦全集』第 3 卷月報第 3 号、慶應義塾大学出版会、2014 年 1 月、pp. 6–8.
- 安藤礼二「すばるクリティーク 「神秘哲学」 から空海へ：井筒俊彦の未来」『すばる』第 36 卷第 2 号、集英社、2014 年 2 月、pp. 202–217.
- 牧野信也「哲学の骨、詩の肉 (9) 西脇詩学、井筒哲学」『現代詩手帖』第 57 卷第 2 号、思潮社、2014 年 2 月、pp. 178–182.
- 小西達也「『一』→『多』」的人間観・世界観に基づいたスピリチュアルケア序論：井筒哲学に依拠して」『武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要』第 4 号、武蔵野大学教養教育リサーチセンター、2014 年 3 月、pp. 133–153.
- 前田英樹「書評 『禅仏教の哲学に向けて』井筒俊彦著 あえて英文で語る困難」『読売新聞東京』(朝)、2014 年 3 月 2 日、p. 10.
- 瀬戸内寂聴「豪華な学者夫妻」『井筒俊彦全集』第 4 卷月報第 4 号、慶應義塾大学出版会、2014 年 3 月、pp. 1–4.
- 小杉泰「井筒イスラーム学と私」『井筒俊彦全集』第 4 卷月報第 4 号、慶應義塾大学出版会、2014 年 3 月、pp. 4–6.
- 合庭惇「『イスラーム思想史』の頃」『井筒俊彦全集』第 4 卷月報第 4 号、慶應義塾大学出版会、2014 年 3 月、pp. 7–9.
- 鎌田繁「イスラーム思想と井筒「東洋哲学」」『宗教研究』第 87 卷別冊、日本宗教学会、2014 年 3 月、pp. 36–37.
- KAWADE 仁「井筒俊彦における東洋の宗教理解：宗教心理学の視点から」『宗教研究』第 87 卷別冊、日本宗教学会、2014 年 3 月、pp. 37–38.
- 若松英輔「日本文学と井筒俊彦」『宗教研究』第 87 卷別冊、日本宗教学会、2014 年 3 月、pp. 39–40.
- 澤井義次「井筒「東洋哲学」におけるインド宗教思想」『宗教研究』第 87 卷別冊、日本宗教学会、2014 年 3 月、pp. 40–41.
- 澤井義次「パネルの主旨とまとめ」『宗教研究』第 87 卷別冊、日本宗教学会、2014 年 3 月、pp. 41–42.* 第 72 回日本宗教学会学術大会「東洋の宗教思想と井筒俊彦」パネル発表より。
- 池内恵・澤井義次・若松英輔「座談会 生誕一〇〇年 イスラーム、禅、東洋哲学…… 我々にとっての井筒俊彦はこれから始まる」『中央公論』第 129 卷 4 号、中央公論新社、2014 年 4 月、pp. 156–168.
- 安藤礼二「井筒俊彦のエラノス：シャマニズム、禅、華嚴」『三田文学』第 93 卷第 117 号、三田文学会、2014 年 4 月、pp. 114–125.
- 山本芳久「井筒俊彦とキリスト教：存在論的原理としての愛」『三田文学』第 93 卷第 117 号、三田文学会、2014 年 4 月、pp. 126–151.
- 河合俊雄「河合隼雄と井筒俊彦」『三田文学』第 93 卷第 117 号、三田文学会、2014 年 4 月、

- pp. 152–156.
- 新倉俊一「表層から深層へ：西脇順三郎と井筒俊彦」『三田文学』第93巻第117号、三田文学会、2014年4月、pp. 156–161.
- 納富信留「神秘を歩む言葉：井筒俊彦の暗夜」『三田文学』第93巻第117号、三田文学会、2014年4月、pp. 161–167.
- 鏡リュウジ『「神秘哲学」との再会に向けて』『三田文学』第93巻第117号、三田文学会、2014年4月、pp. 167–172.
- 西平直「易と元型：井筒俊彦『意識と本質』における「易経」」『三田文学』第93巻第117号、三田文学会、2014年4月、pp. 172–177.
- 中島岳志「井筒俊彦との出会い」『三田文学』第93巻第117号、三田文学会、2014年4月、pp. 177–181.
- 田口ランディ・若松英輔「対談 架橋するコトバ：井筒俊彦の詩学」『三田文学』第93巻第117号、三田文学会、2014年4月、pp. 182–201.
- 三田文学編集部編「井筒俊彦のススメ」『三田文学』第93巻第117号、三田文学会、2014年4月、pp. 202–205.
- 吉村萬壺「書評 幾何学的美を湛えた灯台：井筒俊彦著/野平宗弘訳『禅仏教の哲学に向けて』」『三田文学』第93巻第117号、三田文学会、2014年4月、pp. 282–284.
- 池澤夏樹「翻訳者としての井筒俊彦」『井筒俊彦全集』第5巻月報第5号、慶應義塾大学出版会、2014年5月、pp. 1–3.
- 山内志郎「西洋中世哲学から見た井筒俊彦」『井筒俊彦全集』第5巻月報第5号、慶應義塾大学出版会、2014年5月、pp. 3–5.
- 合庭惇「『イスラーム思想史』出版後のこと」『井筒俊彦全集』第5巻月報第5号、慶應義塾大学出版会、2014年5月、pp. 6–8.
- 安藤礼二・若松英輔編『井筒俊彦：言語の根源と哲学の発生 KAWADE 道の手帖』河出書房新社、2014年6月。
- 安藤礼二・若松英輔「コトバの形而上学 井筒俊彦の生涯と思想」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 2–21.
- 高橋巖 述、安藤礼二（若松英輔 聞き手）「エラノスで会った〈非〉学問の人」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 22–34.
- 大江健三郎「井筒宇宙の周縁で」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 35–42.
- 田口ランディ「『意識の形而上学——「大乘起信論」の哲学』を読む」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 43–49.
- 吉村萬壺「下から」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 50–55.
- 池田晶子「『意識と本質』を読む」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 56–60.
- 日野啓三「言い難く豊かな砂漠の人」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 61–63.
- コーネル・ホフ、ジャン「井筒哲学を翻訳する」野口良次訳、『井筒俊彦 言語の根源と哲

- 学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 64–67.
- 中沢新一「創造の出発点」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 76–80.
- 安藤礼二「呪術と神秘」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 81–88.
- 若松英輔「光と意識の形而上学」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 89–101.
- 中島岳志「東洋の理想」の行方』『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 102–111.
- 山城むつみ「井筒俊彦とロシアと文字と戦争と」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 114–123.
- 上野俊哉「スピリチュアル・アナキズムに向かって」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 124–135.
- 河合俊雄「井筒俊彦とエラノス精神」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 136–143.
- 末木文美士「禅から井筒哲学を考える」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 144–145.
- 頼住光子「井筒俊彦と道元」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 153–161.
- 池内恵「井筒俊彦の主要著作に見る日本的イスラーム理解」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 162–171.
- 納富信留「井筒俊彦とプロティノス」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 172–179.
- 澤井義次「井筒俊彦とインド哲学」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 180–187.
- 鎌田東二「詩と宗教と哲学の間」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 188–196.
- 野平宗弘「地球社会化時代の東洋哲学」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 197–203.
- 松枝到「読む」ことの教え」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 204–211.
- 永井晋「精神的東洋を求めて」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』河出書房新社、2014年6月、pp. 212–219.
- 三浦雅士「宗教と文芸批評」『井筒俊彦全集』第6巻月報第6号、慶應義塾大学出版会、2014年7月、pp. 1–3.
- 中根千枝「井筒夫人・豊子さんの友人として」『井筒俊彦全集』第6巻月報第6号、慶應義塾大学出版会、2014年7月、pp. 4–6.
- 合庭惇「テヘランから鎌倉へ」『井筒俊彦全集』第6巻月報第6号、慶應義塾大学出版会、2014年7月、pp. 6–8.
- 若松英輔「講演録 コトバの形而上学：詩人哲学者井筒俊彦の起源」『三田評論』第1181

- 号、慶應義塾大学出版会、2014年8月、pp. 52–65.
- ランドルト、ヘルマン「井筒俊彦を回想して」野元晋訳、『井筒俊彦全集』第7巻月報第7号、慶應義塾大学出版会、2014年9月、pp. 1–7.
- 河合俊雄「経験と哲学、イメージとことば——井筒俊彦からの学び——」『井筒俊彦全集』第7巻月報第7号、慶應義塾大学出版会、2014年9月、pp. 8–10.
- 湯川豊「読むということ」『井筒俊彦全集』第7巻月報第7号、慶應義塾大学出版会、2014年9月、pp. 10–12.
- 若松英輔「書く——井筒俊彦と「生きる哲学」」『生きる哲学』文藝春秋、2014年11月、pp. 253–265.
- 若松英輔「編集者が語るこの叢書・このシリーズ(4) 秘められた叡知：『井筒俊彦全集』を読む」『人文会 news』第119号、人文会、2014年12月、pp. 31–37.
- 玄侑宗久「井筒病」『井筒俊彦全集』第8巻月報第8号、慶應義塾大学出版会、2014年12月、pp. 1–3.
- 野村喜和夫「存在論的流動——井筒哲学と私——」『井筒俊彦全集』第8巻月報第8号、慶應義塾大学出版会、2014年12月、pp. 3–6.
- 島蘭進「多様性と一元性の間」『井筒俊彦全集』第8巻月報第8号、慶應義塾大学出版会、2014年12月、pp. 6–8.
- Eisuke Wakamatsu, *Toshibiko Izutsu and the Philosophy of Word: in Search of the Spiritual Orient*, translated by Jean Connell Hoff, Tokyo: International House of Japan, 2014. * 若松英輔『井筒俊彦 叡知の哲学』（慶應義塾大学出版会、2011年5月）の翻訳。

2015年

- 若松英輔「コトバはどこへ行くのか 井筒俊彦を「読みなおす」意義」『毎日新聞東京』（夕）、2015年2月16日、p. 4.
- 岡本行夫「Book 必読本 わたしの一冊 わかりやすくイスラムの本質を解説 井筒俊彦『イスラーム文化 その根底にあるもの』岩波文庫」『財界』2月24日号、財界研究所、2015年2月24日、p. 103.
- 吉村萬壺「本当の事」『井筒俊彦全集』第9巻月報第9号、慶應義塾大学出版会、2015年2月、pp. 1–3.
- 澤井義次「井筒俊彦先生ご夫妻との思い出」『井筒俊彦全集』第9巻月報第9号、慶應義塾大学出版会、2015年2月、pp. 3–6.
- 山本芳久「文人哲学者 井筒俊彦」『井筒俊彦全集』第9巻月報第9号、慶應義塾大学出版会、2015年2月、pp. 6–8.
- 水野善文「書評 井筒俊彦著／野平宗弘訳『禅仏教の哲学にむけて』：現代の訳経僧」『総合文化研究』第18号、東京外国語大学総合文化研究所、2015年3月、pp. 110–113.
- 若松英輔「第5章 コトバの形而上学——詩人哲学者・井筒俊彦の起源」『霊性の哲学』Kadokawa、2015年3月、pp. 167–197.
- 野元晋「序文（故井筒俊彦名誉教授生誕100年記念小特集 井筒俊彦と「西洋」の思想）」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第46号、慶應義塾大学言語文化研究所、2015年3月、pp. 1–6.

- 納富信留「ギリシア神秘哲学の可能性：井筒俊彦『神秘哲学』のプラトン論」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第46号、慶應義塾大学言語文化研究所、2015年3月、pp. 7-29.
- 山内志朗「井筒俊彦と中世スコラ哲学」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第46号、慶應義塾大学言語文化研究所、2015年3月、pp. 31-48.
- 市川裕「井筒俊彦とユダヤ思想：哲学者マイモニデスをめぐって」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第46号、慶應義塾大学言語文化研究所、2015年3月、pp. 49-69.
- 氣多雅子「井筒「東洋哲学」の哲学的視座」『宗教研究』第88巻別冊、日本宗教学会、2015年3月、pp. 90-91.
- ロペス・パソス、ファン・ホセ「井筒「東洋哲学」における言語とその意味」『宗教研究』第88巻別冊、日本宗教学会、2015年3月、pp. 91-93.
- 安藤礼二「井筒の思索における華嚴的な世界」『宗教研究』第88巻別冊、日本宗教学会、2015年3月、pp. 93-94.
- 鎌田繁「井筒のイスラーム理解と流出論」『宗教研究』第88巻別冊、日本宗教学会、2015年3月、pp. 94-95.
- 澤井義次「パネルの主旨とまとめ」『宗教研究』第88巻別冊、日本宗教学会、2015年3月、pp. 96-97.*第73回日本宗教学会学術大会「井筒俊彦の「東洋哲学」への宗教学的視座」パネル発表より。
- 太田俊寛「井筒俊彦『イスラーム文化 その根底にあるもの』イスラームの体系を形成する法と精神のダイナミズム」『宗教学 ブックガイドシリーズ 基本の31冊』みすず書房、2015年4月、pp. 92-97.
- 鎌田繁「「垂幕のうしろから」学んだ井筒俊彦」『井筒俊彦全集』第10巻月報第10号、慶應義塾大学出版会、2015年5月、pp. 1-3.
- 鏡リョウジ「Seeing with Different Eyes——井筒俊彦と「占い」——」『井筒俊彦全集』第10巻月報第10号、慶應義塾大学出版会、2015年5月、pp. 3-6.
- 駒野欽一「モハグ博士を通じて見た井筒先生」『井筒俊彦全集』第10巻月報第10号、慶應義塾大学出版会、2015年5月、pp. 6-8.
- 山内志朗「形而上学的桂米朝論：桂米朝と井筒俊彦」『ユリイカ』第47巻第8号、青土社、2015年6月、pp. 206-212.
- 若松英輔「全集から読み解く井筒俊彦」『Kotoba：多様性を考える言論誌』第20号、集英社、2015年6月、pp. 76-81.
- 安藤礼二「「反知性主義」に陥らないための必読50冊 井筒俊彦『神秘哲学』慶應義塾大学出版会」『文学界』第69巻第7号、文藝春秋、2015年7月、pp. 166-167.
- ナスル、サイイド・ホセイン「井筒俊彦の思い出」澤井真訳、『井筒俊彦全集』第11巻月報第11号、慶應義塾大学出版会、2015年7月、pp. 1-6.
- 宇野重規「井筒俊彦の奇跡の数年」『井筒俊彦全集』第11巻月報第11号、慶應義塾大学出版会、2015年7月、pp. 6-8.
- 島多代「井筒俊彦先生と父・松本正夫」『井筒俊彦全集』第11巻月報第11号、慶應義塾大学出版会、2015年7月、pp. 9-11.
- 松本耿郎「講演 井筒哲学と新プラトン主義」『新プラトン主義研究』第14号、新プラトン

- 主義協会、2015年8月、pp. 1–11.
- 若松英輔『叡知の詩学 小林秀雄と井筒俊彦』慶應義塾大学出版会、2015年10月。
- 西平直「西田哲学と「事事無礙」：井筒俊彦の華嚴哲学理解を介して」『思想』第1099号、岩波書店、2015年11月、pp. 27–51.
- 阿部眞司『『意識と本質』（井筒俊彦）を読むためのノート』『群馬の思想・文学・教育』、「思想文化方法論」の会、2015年12月、pp. 18–69.
- 西平直「井筒俊彦の「分節」と「無分節」 華嚴思想の「事」と「理」』『比較思想から見た日本仏教』山喜房佛書林、2015年12月。
- Nishihira, Tadashi, “Subjectivity of ‘Mu-shin’ (No-mind-ness): Zen Philosophy as Interpreted by Toshihiko Izutsu”, *Journal of Integrated Creative Studies*, Kyoto: Kyoto University International Research Unit of Future, 2015, pp. 1–5.
- López Pazos, Juan José, “Language as a Model of Reality: Toshihiko Izutsu’s “Oriental Philosophy” and Its Structure”, *Agora: Journal of International Center for Regional Studies*, Vol. 12, Tenri: Tenri University. International Center for Regional Studies, 2015, pp. 41–59.
- Ono, Junichi, “Ma ‘nā-yi aṣṣī-yi falsafah-yi Īzūtsū”, *Ittīlā ‘āt-i ḥikmat va ma‘rifat*, Vol. 11, 2015, pp. 13–16.
- Ono, Junichi, “The Genealogy of Takeuchi Yoshimi’s Notion of ‘Multiple Asias’ and the Significance of the Asia Discourses by Mizoguchi, Chen and Izutsu”, *Crossroads*, Vol. 10, Illinois: Northern Illinois University. Center for Southeast Asian Studies, 2015, pp. 211–234.

2016年

- 安藤礼二「ロシア的人間——井筒俊彦とドストエフスキー」『ドストエフスキー カラマーゾフの予言』河出書房新社、2016年1月。
- 平山周吉「書評 精神の同族だった「詩人」二人」『新潮45』第405号、新潮社、2016年1月、pp. 330–331.* 『叡知の詩学 小林秀雄と井筒俊彦』書評
- シャリーアティー、エフサン「現代の「イラン的イスラム」哲学におけるコルバンと井筒の役割に関する導入的比較研究：ハイデガーからマシニョンまで」景山洋平訳、『国際哲学研究』第7号別冊、東洋大学国際哲学研究センター、2016年2月、pp. 50–57.
- プールジャヴァーディー、ナスロッラー「井筒俊彦のイラン神秘主義哲学に対する関心」諫早庸一訳、『国際哲学研究』第7号別冊、東洋大学国際哲学研究センター、2016年2月、pp. 68–77.
- 竹下政孝「イスラム学者としての井筒俊彦」『国際哲学研究』第7号別冊、東洋大学国際哲学研究センター、2016年2月、pp. 82–85.
- 小野純一「井筒哲学における言語論の問題と意義」『国際哲学研究』第7号別冊、東洋大学国際哲学研究センター、2016年2月、pp. 86–105.
- 小野純一「井筒俊彦の思索を再考する：場の哲学に向けて」『国際哲学研究』第5号、東洋大学国際哲学研究センター、2016年3月、pp. 161–173.
- 小野純一「言語文化は相対的か：アラビア語教育へむけて」『専修大学外国語教育論集』第44号、専修大学外国語教育研究室、2016年3月、pp. 105–125.
- 上田閑照「井筒俊彦先生のこと」『井筒俊彦全集』第12巻月報第12号、慶應義塾大学出版会、2016年3月、pp. 1–2.

- 斎藤慶典「井筒哲学への対応」『井筒俊彦全集』第12巻月報第12号、慶應義塾大学出版会、2016年3月、pp. 2-5.
- 池内恵「言語的現象としての宗教」『井筒俊彦全集』第12巻月報第12号、慶應義塾大学出版会、2016年3月、pp. 5-8.
- 河東仁「西洋における metapsychisches Wesen の探究と記憶術」『宗教研究』第89巻別冊、日本宗教学会、2016年3月、pp. 99-100.
- 池澤優「井筒俊彦と道家思想：郭店楚簡『老子』『太一生水』から考える」『宗教研究』第89巻別冊、日本宗教学会、2016年3月、pp. 100-101.
- 金子奈央「井筒俊彦における禅解釈とその枠組み」『宗教研究』第89巻別冊、日本宗教学会、2016年3月、pp. 101-103.
- 下田正弘「井筒俊彦の仏教思想理解の特質」『宗教研究』第89巻別冊、日本宗教学会、2016年3月、pp. 103-104.
- 鎌田繁「パネルの主旨とまとめ」『宗教研究』第89巻別冊、日本宗教学会、2016年3月、pp. 104-105.*第74回日本宗教学会学術大会「東洋の宗教思想と井筒俊彦の哲学的思惟」パネル発表より
- 澤井義次「井筒俊彦のオットー理解とその特徴」『宗教研究』第89巻別冊、日本宗教学会、2016年3月、pp. 155-156.
- ザキプール、バフマン「井筒俊彦の東洋哲学とスフラワルディー哲学」『宗教哲学研究』第33号、宗教哲学会、2016年4月、pp. 82-89.
- 小沼純一「書評（129）井筒俊彦『意識と本質：精神的東洋を求めて』」『UP』第45巻第7号、東京大学出版会、2016年7月、pp. 60-71.
- 西平直「道元「水、水を見る」——井筒俊彦の『正法眼蔵』理解の一断面——」『禅からみた日本中世の文化と社会』天野文雄監修、ぺりかん社、2016年7月、pp. 230-246.
- 西平直「西田哲学と『大乘起信論』：井筒俊彦『意識の形而上学』を介して（上）」『思想』第1108号、岩波書店、2016年8月、pp. 97-116.
- アルダラン、ナダール「ことばに尽くせぬ思い出」足立康訳、『井筒俊彦全集』別巻月報第13号、慶應義塾大学出版会、2016年8月、pp. 1-3.
- 黒田壽郎「フィロソフィカル・セマンティクスの射程」『井筒俊彦全集』別巻月報第13号、慶應義塾大学出版会、2016年8月、pp. 4-6.
- 互盛央「井筒俊彦と丸山圭三郎——出会い、交錯した二人は、どこに向かったか」『井筒俊彦全集』別巻月報第13号、慶應義塾大学出版会、2016年8月、pp. 6-12.
- 若松英輔「井筒俊彦年譜」『井筒俊彦全集』別巻、慶應義塾大学出版会、2016年8月、pp. 113-139.
- [無署名]「著作目録」『井筒俊彦全集』別巻、慶應義塾大学出版会、2016年8月、pp. 141-186.
- 西平直「西田哲学と『大乘起信論』：井筒俊彦『意識の形而上学』を介して（中）」『思想』第1110号、岩波書店、2016年10月、pp. 90-111.
- 湯川豊「書評：井筒俊彦全集 別巻（講演音声 CD 付き）」『毎日新聞』（朝）、2016年12月18日。
- Takeshita, Masataka, “Toshihiko Izutsu’s Contribution to Islamic Studies”, *Journal of International Philosophy*, Vol. 7, Tokyo: Toyo University. International Research Center for Philosophy, 2016, pp.

2017年

- 西平直「西田哲学と『大乘起信論』：井筒俊彦『意識の形而上学』を介して（下）」『思想』第1113号、岩波書店、2017年1月、pp. 103-123.
- 中田考「近代日本のイスラーム理解2 井筒俊彦」『イスラーム入門 文明の共存を考えるための99の扉』集英社、2017年2月、pp. 233-237.
- 小野純一「範型と多様性の探求—井筒俊彦の言語文化論の射程」『専修大学外国語教育論集』第45号、専修大学外国語教育研究室、2017年3月、pp. 65-84.
- 松村力「井筒俊彦の真言密教解釈について：「存在はコトバである」か」『智山学報』第66号、智山勸学会、2017年3月、pp. 47-57
- 山崎達也「イスラーム哲学と仏教との存在論的連関—井筒俊彦『意識の形而上学』の思想をもとに—」『通信教育部論集』第20号、創価大学通信教育部学会、2017年3月、pp. 115-133.
- 鎌田繁「井筒俊彦とイスラーム」『井筒・東洋哲学の構築とその思想構造に関する比較宗教学的検討 平成26年度～平成28年度科学研究費助成事業・基盤研究（B）研究活動報告書（課題番号 JP26284013）』代表者澤井義次、2017年3月、pp. 1-7.
- 澤井義次「井筒俊彦とインド宗教思想」『井筒・東洋哲学の構築とその思想構造に関する比較宗教学的検討 平成26年度～平成28年度科学研究費助成事業・基盤研究（B）研究活動報告書（課題番号 JP26284013）』代表者澤井義次、2017年3月、pp. 8-9.
- 氣多雅子「井筒俊彦における哲学と体験」『井筒・東洋哲学の構築とその思想構造に関する比較宗教学的検討 平成26年度～平成28年度科学研究費助成事業・基盤研究（B）研究活動報告書（課題番号 JP26284013）』代表者澤井義次、2017年3月、pp. 10-22
- 市川裕「井筒俊彦とユダヤ思想—哲学者マイモニデスを中心に—」『井筒・東洋哲学の構築とその思想構造に関する比較宗教学的検討 平成26年度～平成28年度科学研究費助成事業・基盤研究（B）研究活動報告書（課題番号 JP26284013）』代表者澤井義次、2017年3月、pp. 22-24.
- 池澤優「現代的状況に対する井筒思想の適用可能性—生命倫理の状況を中心に—」『井筒・東洋哲学の構築とその思想構造に関する比較宗教学的検討 平成26年度～平成28年度科学研究費助成事業・基盤研究（B）研究活動報告書（課題番号 JP26284013）』代表者澤井義次、2017年3月、pp. 25-46.
- 下田正弘「言語、意識、存在—井筒俊彦が会見する仏教思想の深遠—インド仏教における如来蔵思想に注目して」『井筒・東洋哲学の構築とその思想構造に関する比較宗教学的検討 平成26年度～平成28年度科学研究費助成事業・基盤研究（B）研究活動報告書（課題番号 JP26284013）』代表者澤井義次、2017年3月、pp. 46-54.
- 野元晋「イスマール・シーア派思想と井筒俊彦」『井筒・東洋哲学の構築とその思想構造に関する比較宗教学的検討 平成26年度～平成28年度科学研究費助成事業・基盤研究（B）研究活動報告書（課題番号 JP26284013）』代表者澤井義次、2017年3月、pp. 59-67.
- 鎌田繁「井筒俊彦のイスラーム研究とその「東洋哲学」への展開」『井筒・東洋哲学の構築

- とその思想構造に関する比較宗教学的検討 平成 26 年度～平成 28 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書 (課題番号 JP26284013)』代表者澤井義次、2017 年 3 月、pp. 75-77.
- アッレス、グレゴリー・D「宗教研究の源としての井筒俊彦——北米からの視点——」『井筒・東洋哲学の構築とその思想構造に関する比較宗教学的検討 平成 26 年度～平成 28 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書 (課題番号 JP26284013)』代表者澤井義次、2017 年 3 月、pp. 77-79.
- トーハ、アニス・マリク「メタ・ヒストリカルな対話——井筒の宗教間対話への試み」『井筒・東洋哲学の構築とその思想構造に関する比較宗教学的検討 平成 26 年度～平成 28 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書 (課題番号 JP26284013)』代表者澤井義次、2017 年 3 月、pp. 80-82.
- 氣多雅子「形而上学的体験の極所——井筒の「精神的東洋」についての一考察——」『井筒・東洋哲学の構築とその思想構造に関する比較宗教学的検討 平成 26 年度～平成 28 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書 (課題番号 JP26284013)』代表者澤井義次、2017 年 3 月、pp. 82-84.
- 鎌田繁「井筒のイスラーム研究と意味論」『宗教研究』第 90 号別冊、2017 年 3 月、pp. 35-36.
- 島田勝巳「井筒「東洋哲学」とその外部」『宗教研究』第 90 号別冊、2017 年 3 月、pp. 36-37.
- 小野純一「宗教体験における根源現象から意味場の生成へ」『宗教研究』第 90 号別冊、2017 年 3 月、pp. 38-39.
- 澤井義次「井筒・東洋哲学におけるインド宗教思想と言語」『宗教研究』第 90 号別冊、2017 年 3 月、pp. 39-40.
- 氣多雅子「コメント」『宗教研究』第 90 号別冊、2017 年 3 月、pp. 40-41.* 第 74 回日本宗教学会学術大会「井筒俊彦の「東洋哲学」における宗教と言語」に対するコメント。
- 澤井義次「パネルの主旨とまとめ」『宗教研究』第 90 号別冊、2017 年 3 月、pp. 41-42.* 第 74 回日本宗教学会学術大会「井筒俊彦の「東洋哲学」における宗教と言語」パネル発表より。
- 古勝隆一「訳者解説」『井筒俊彦英文著作翻訳コレクション 老子道德経』古勝隆一訳、慶應義塾大学出版会、2017 年 4 月、pp. 231-252.
- 平山周吉「江藤淳は甦える (21) 埴谷雄高と井筒俊彦に導かれ」『新潮 45』第 36 巻第 4 号、新潮社、2017 年 4 月、pp. 282-291.
- 安藤礼二・若松英輔編『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』(増補新版) 河出書房新社、2017 年 6 月。
- 大澤真幸「(古典百名山 : 6) 井筒俊彦『意識と本質』 大澤真幸が読む」『朝日新聞』(朝)、2017 年 6 月 11 日、p. 14.
- 鎌田繁「解説」『井筒俊彦英文著作翻訳コレクション クルアーンにおける神と人間 クルアーンの世界観の意味論』鎌田繁監訳・仁子寿晴訳、慶應義塾大学出版会、2017 年 6 月、pp.351-366.
- 山内志朗「井筒俊彦と中世スコラ哲学」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』(増補新版)

- 河出書房新社、2017年6月、pp. 220–233.
- 山本芳久「井筒俊彦とキリスト教 存在論的原理としての愛」『井筒俊彦 言語の根源と哲学の発生』（増補新版）河出書房新社、2017年6月、pp. 234–251.
- 山折哲雄「書評 『中央公論』から生まれた本 10 井筒俊彦『東洋哲学覚書 意識の形而上学』『大乘起信論』の哲学』中公文庫『中央公論』第131巻第7号、2017年7月、pp. 172–173.
- 井筒豊子『井筒俊彦の学問遍路:同行二人半』慶應義塾大学出版会、2017年9月。
- 小嶋洋介「本質と自己 —自然の存在学のために:井筒俊彦における〈マーヤー〉—」『人文研紀要』第86号、人文科学研究所、2017年9月、pp. 227–256.
- 澤井義次「解説 豊子夫人が語る井筒俊彦先生」『井筒俊彦の学問遍歴:同行二人半』慶應義塾大学出版会、2017年9月、pp.199-203.
- 鎌田繁「解説」『井筒俊彦英文著作翻訳コレクション 存在概念と実在性』鎌田繁監訳・仁子寿晴訳、慶應義塾大学出版会、2017年10月、pp. 243–254.
- 橋本五郎「書評 「井筒俊彦の学問遍路」井筒豊子著 学者の妻の理想型」『読売新聞』（東京朝刊）2017年10月29日、p.12.
- al-‘Ākūb, ‘Īsā ‘Alī [Eisa Ali Al-Akoub], "Muqaddima al-mutarjim", Tūshihikū Īzūtsū, *Bayn Allāh wa-al-insān fī al-Qur’ān - Dirāsa dalālīyya li-naẓra al-Qur’ān ilā al-‘ālam*, Dimashq: Dār Nīnawā, 2017, pp.9-24.
- al-‘Ākūb, ‘Īsā ‘Alī [Eisa Ali Al-Akoub], "Muqaddima al-mutarjim", Tūshihikū Īzūtsū, *al-Mafhūmāt al-akblāqīyya al-dīniyya fī al-Qur’ān*, Dimashq: Dār Nīnawā, 2017, pp.3-32.
- al-‘Ākūb, ‘Īsā ‘Alī [Eisa Ali Al-Akoub], "Muqaddima al-mutarjim ilā al-‘arabiyya", Tūshihikū Īzūtsū, *al-Mafhūm al-īmān fī ‘ilm al-kalām al-islāmī - Taḥlīl dalālī li-al-īmān wa-al-islām*, Dimashq: Dār Nīnawā, 2017, pp.7–15.
- Yoshitsugu Sawai, "Semantic Structure of Izutsu's Oriental Philosophy," in 澤井義次『宗教學的省思』台湾宗教與社会協會、2017年、pp.146–176.

2018年

- 鎌田繁「解説」『井筒俊彦英文著作翻訳コレクション イスラーム神学における信の構造 イーマーンとイスラームの意味論的分析』鎌田繁監訳・仁子寿晴・橋爪烈訳、2018年2月、pp. 401–414.
- 斎藤慶典『「東洋」哲学の根本問題 あるいは井筒俊彦』講談社、2018年2月。
- 池澤優「応用倫理の領域における井筒「東洋哲学」の可能性」『宗教研究』第91巻別冊、日本宗教学会、2018年3月、pp. 39–40.
- 長岡徹郎「西谷啓治と井筒俊彦における「意識」に関する比較」『宗教研究』第91巻別冊、日本宗教学会、2018年3月、pp. 40–42.
- 金子奈央「東洋的芸術を通じた井筒俊彦の東洋思想・哲学観」『宗教研究』第91巻別冊、日本宗教学会、2018年3月、pp. 42–43.
- 島藺進「井筒俊彦の「東洋哲学」観と宗教理解の特質」『宗教研究』第91巻別冊、日本宗教学会、2018年3月、pp. 43–44.
- 澤井義次「パネルの主旨とまとめ」『宗教研究』第91巻別冊、日本宗教学会、2018年3月、

- pp. 45-46.*第75回日本宗教学会学術大会「井筒「東洋哲学」のパースペクティブと宗教研究」パネル発表より。
- 鎌田繁「井筒「東洋哲学」とイスラーム研究」『宗教研究』第91巻別冊、2018年3月、pp.273-274.
- 安藤礼二「解説 井筒俊彦の隠された起源」『井筒俊彦英文著作翻訳コレクション 言語と呪術』小野純一訳、慶應義塾大学出版会、2018年9月、pp.225-252.
- 鎌田繁「「東洋哲学」とイスラーム研究」澤井義次・鎌田繁編『井筒俊彦の東洋哲学』、慶應義塾大学出版会、2018年9月、pp.11-32.
- 若松英輔「井筒俊彦とカトリックの霊性」澤井義次・鎌田繁編『井筒俊彦の東洋哲学』、慶應義塾大学出版会、2018年9月、pp.33-52.
- 市川裕「近代ユダヤ教正統主義におけるコスモスとアンチコスモス」澤井義次・鎌田繁編『井筒俊彦の東洋哲学』、慶應義塾大学出版会、2018年9月、pp.53-78.
- 島田勝巳「「神秘哲学」から「東洋哲学」へ」澤井義次・鎌田繁編『井筒俊彦の東洋哲学』、慶應義塾大学出版会、2018年9月、pp.79-103.
- 野元晋「イスラーム・シーア派思想と井筒俊彦」澤井義次・鎌田繁編『井筒俊彦の東洋哲学』、慶應義塾大学出版会、2018年9月、pp.105-131.
- 氣多雅子「形而上学的体験の場所 「精神的東洋」とは何か」澤井義次・鎌田繁編『井筒俊彦の東洋哲学』、慶應義塾大学出版会、2018年9月、pp.135-157.
- 安藤礼二「井筒俊彦と華嚴的世界 東洋哲学樹立に向けて」澤井義次・鎌田繁編『井筒俊彦の東洋哲学』、慶應義塾大学出版会、2018年9月、pp.159-181.
- 金子奈央「井筒俊彦における禅解釈とその枠組み」澤井義次・鎌田繁編『井筒俊彦の東洋哲学』、慶應義塾大学出版会、2018年9月、pp.183-206.
- 下田正弘「井筒俊彦が開顕する仏教思想 比較宗教思想的地平から如来像思想をみる」澤井義次・鎌田繁編『井筒俊彦の東洋哲学』、慶應義塾大学出版会、2018年9月、pp.207-230.
- 澤井義次「東洋思想の共時的構造化へ エラノス会議と「精神的東洋」」澤井義次・鎌田繁編『井筒俊彦の東洋哲学』、慶應義塾大学出版会、2018年9月、pp.233-257.
- 池澤優「井筒「東洋哲学」の現代的意義 兼ねて郭店『老師』と『太一生水』を論ず」澤井義次・鎌田繁編『井筒俊彦の東洋哲学』、慶應義塾大学出版会、2018年9月、pp.259-290.
- ロペス・パソス フアン・ホセ「東洋における言語の形而上学」澤井義次・鎌田繁編『井筒俊彦の東洋哲学』、慶應義塾大学出版会、2018年9月、pp.291-307.
- 小野純一「根源現象から意味場へ 思考を生む知性の仕組みを辿る」澤井義次・鎌田繁編『井筒俊彦の東洋哲学』、慶應義塾大学出版会、2018年9月、pp.309-333.
- 長岡徹郎「井筒俊彦研究文献一覧」澤井義次・鎌田繁編『井筒俊彦の東洋哲学』、慶應義塾大学出版会、2018年9月、pp.5-37.
- 安藤礼二「「東方哲学」素描：鈴木大拙、折口信夫、井筒俊彦の仏教（総特集 仏教を考える）」『現代思想』第46巻第16号、青土社、2018年10月、pp.48-58.
- 榎木野衣「書評 『大拙』安藤礼二〈著〉 『井筒俊彦英文著作翻訳コレクション 言語と呪術』井筒俊彦著〈著〉」『朝日新聞』（朝）、2018年12月8日、p.28.
- 久保隆司「井筒俊彦の啓示類型論から見る「心神との対話」構造とその解釈：「日本書紀」から山崎闇斎の神学に至る比較思想的探究」『日本思想史学』第50号、日本思想史学会、

2018年、pp.190-208.

小嶋洋介「方法としての形而上学：井筒俊彦における〈存在一性〉」『人文研紀要』第89号、中央大学人文科学研究所、2018年、pp.255-283、

2019年

若松英輔「たましいを旅するひと…河合隼雄 22回 第17章 井筒俊彦と無のコトバ」『群像』、講談社、2019年1月、pp.290-300.

バフマン・ザキプール『井筒俊彦の比較哲学：神的なもの和社会的なものの争い』知泉書館、2019年。

納富信留「解説」『神秘哲学：ギリシアの部 (岩波文庫)』岩波書店、2019年2月、pp.635-648.

小野純一「随筆 マルクス・ガブリエルと井筒俊彦 ※筆者の知己でもある昨今話題の哲学者、マルクス・ガブリエルが関心を持った井筒俊彦の哲学」『群像』、講談社、2019年3月、pp.290-291.

斎藤慶典「解説」『意味の深みへ：東洋哲学の水位 (岩波文庫)』岩波書店、2019年3月、pp.361-398.

[無署名]「書評 井筒俊彦『クルアーンにおける神と人間：クルアーンの世界観の意味論』(鎌田繁監訳、仁子寿晴訳)(井筒俊彦英文著作翻訳コレクション) 慶應義塾大学出版会 2017年 366+23頁」『イスラーム世界研究』第12号、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター、2019年3月、pp.259-263.

澤井義次「解説 エラノス会議と井筒「東洋哲学」」『井筒俊彦英文著作翻訳コレクション 東洋哲学の構造：エラノス会議講演集』金子奈央、古勝隆一、西村玲訳、慶應義塾大学出版会、2019年4月、pp.511-530.

河合俊雄「解説」『コスモスとアンチコスモス』岩波書店 2019年5月、pp.-503.

仁子寿晴「解説」『井筒俊彦英文著作翻訳コレクション スーフィズムと老荘思想：比較哲学試論』仁子寿晴訳、慶應義塾大学出版会、2019年6月、pp.311-351.

西平直「井筒俊彦「東洋哲学」の論理 分節と無分節の同時現成」藤田正勝、林永強編『近代日本哲学と東アジア』国立臺灣大學出版中心、2019年6月、

久保隆司「井筒俊彦の「神秘哲学」概念導入による山崎闇斎の神学思想の再評価について：——主に『日本書紀』「神代巻」の構造と解釈を通しての試論——」『宗教研究』第93巻第1号、日本宗教学会、2019年9月、pp.1-24.

鶴岡賀雄「書評 澤井義次・鎌田繁編「井筒俊彦の東洋哲学」」『宗教研究』第93巻第2号、日本宗教学会、2019年9月、pp.244-251.

松山洋平「書評と紹介 井筒俊彦著(鎌田繁監訳、仁子寿晴・橋爪烈訳)『イスラーム神学における信の構造：イーマーンとイスラームの意味論的分析』」『イスラーム世界』第92号、日本イスラーム協会、2019年11月、pp.53-60.

小嶋洋介「言語と曼荼羅：井筒俊彦における〈言語哲学〉」『人文研紀要』第92号、中央大学人文科学研究所、2019年、pp.267-296.

佐藤優「書評 Book Reviews 知を磨く読書(第302回)今後の中国情勢と宗教要因[『ネットウヨとパヨク』物江潤著、『神秘哲学 ギリシアの部』井筒俊彦著、『習近平の敗北』福島香織著]」『週刊ダイヤモンド』第107巻第26号、ダイヤモンド社、2019年、p.92.

2020年

- 西平直「分節と無分節の同時現成——井筒俊彦「禅哲学」における「二重写し」について——」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書』、2020年3月、pp.2-11.
- ザキプール・バフマン「井筒・東洋哲学の方法論をめぐる諸問題——『スーフィズムとタオイズム』と『意識と本質』をめぐる——」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書』、2020年3月、pp.11-12.
- ロペス・パソス フアン・ホセ「井筒・東洋哲学における意識構造論」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書』、2020年3月、pp.12-18.
- 鎌田繁「カタールにおける井筒哲学の国際会議に参加して」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書』、2020年3月、pp.18-20.
- 氣多雅子「井筒「言語哲学」とソシユール」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書』、2020年3月、pp.22-27.
- 澤井義次「井筒・東洋哲学における「東洋」の意味」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書』、2020年3月、pp.27-35.
- 市川裕「近代ユダヤ教正統主義におけるコスモスとアンチコスモス」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書』、2020年3月、pp.37-52.
- 古勝隆一「井筒俊彦訳『老子道德経』をめぐる」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書』、2020年3月、pp.54-63.
- ロペス・パソス フアン・ホセ「日本における西洋哲学の受容」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書』、2020年、3月、p.63.
- 仁子寿晴「井筒英語著作における意味論の展開」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書』、2020年3月、pp.65-107.
- 金子奈央「葬送時の〈法の継承〉儀礼における「もの」と井筒俊彦の「禅フィールド」——『徹通義介喪記』を一例として」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書』、2020年3月、pp.108-116.
- 澤井義次「インド哲学の意味論——井筒俊彦の「東洋哲学」——」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書』、2020年3月、p.117.

- 安藤礼二『言語と呪術』の位置づけ——井筒俊彦の哲学的意味論の起源として」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究(B)研究活動報告書』、2020年3月、pp.119-131.
- 小野純一「枠組み、高まり、象徴——意味の働きとは何か」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究(B)研究活動報告書』、2020年3月、pp.132-143.
- 永尾教昭「国際会議の開催に寄せて」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究(B)研究活動報告書』、2020年3月、p.144.
- 澤井義次「共同研究の報告、および会議の趣旨説明」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究(B)研究活動報告書』、2020年3月、p.147.
- グレゴリー・アッレス「深層的存在論、深層的認識論——井筒俊彦とフィリップ・デスコーラの比較——」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究(B)研究活動報告書』、2020年3月、pp.154-155.
- 池澤優「井筒俊彦は宋代儒学のテキストをどのように読んだのか」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究(B)研究活動報告書』、2020年3月、p.155
- マルセリーノ・アヒース＝ビジャベルデ「スペインにおける井筒俊彦の著作と思想の受容」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究(B)研究活動報告書』、2020年3月、pp.155-157.
- 鶴岡賀雄「井筒哲学と一神教の思惟」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究(B)研究活動報告書』、2020年3月、pp.157-158.
- 仁子寿晴「井筒「東洋哲学」構想とイブン・アラビー解釈」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究(B)研究活動報告書』、2020年3月、p.158.
- 小野純一「井筒俊彦とスフラワルディー哲学」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究(B)研究活動報告書』、2020年3月、p.159.
- 長岡徹郎「井筒俊彦の「東洋哲学」における宗教間対話の可能性——京都学派との比較から——」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究(B)研究活動報告書』、2020年3月、p.159.
- 氣多雅子「井筒・言語哲学とその特質——上田閑照の根源語の思想と比較して——」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成29年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究(B)研究活動報告書』、2020年3月、p.160.
- 澤井 真「井筒俊彦とイスラーム神秘主義」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開

- に関する比較宗教学的検討 平成 29 年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究(B) 研究活動報告書』、2020年3月、p.160.
- フアン・ホセ・ロペス・パソス「井筒「東洋哲学」とハイデガー」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成 29 年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書』、2020年3月、pp.161.
- 河東 仁「井筒哲学と日本文学——井筒哲学から読み解く三島由紀夫『豊饒の海』四部作の構造——」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成 29 年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書』、2020年3月、p161.
- マルセリーノ・アヒース＝ビジャベルデ「スペインにおける井筒俊彦の著作と思想の受容」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成 29 年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書』、2020年3月、pp.211-221.
- 長岡徹郎「井筒俊彦データベースからみる井筒研究の現状」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成 29 年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書』、2020年3月、pp.239-243.
- 岩本明美「鈴木大拙と井筒俊彦—東洋的な見方から東洋哲学へ」研究代表者澤井義次『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討 平成 29 年度～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 研究活動報告書』、2020年3月、pp.244-246.
- Yoshitsugu Sawai , “The Collaborative Research Report and the Purpose of This International Research Forum”, *International Research Forum Izutsu’s “Oriental Philosophy” and Religious Studies JSPS Grants-in-aid for Scientific Research (B)*, 2020, pp.163-171.
- Gregory D. Alles , “Deep Ontologies, Deep Epistemologies: A Comparison of Toshihiko Izutsu and Philippe Descola”, *International Research Forum Izutsu’s “Oriental Philosophy” and Religious Studies JSPS Grants-in-aid for Scientific Research (B)*, 2020, pp.17-173.
- Masaru Ikezawa, “How Izutsu Toshihiko read the Confucian Texts in Sung Dynasty?”, *International Research Forum Izutsu’s “Oriental Philosophy” and Religious Studies JSPS Grants-in-aid for Scientific Research (B)*, 2020, p.173.
- Marcelino Agís Villaverde , “Reception of Toshihiko Izutsu’s Works and Thought in Spain”, *International Research Forum Izutsu’s “Oriental Philosophy” and Religious Studies JSPS Grants-in-aid for Scientific Research (B)*, 2020, pp.173-176.
- Gregory D. Alles , “Deep Ontologies, Deep Epistemologies: A Comparison of Toshihiko Izutsu and Philippe Descola”, *International Research Forum Izutsu’s “Oriental Philosophy” and Religious Studies JSPS Grants-in-aid for Scientific Research (B)*, 2020, pp.178-190.
- Marcelino Agís Villaverde, “LA RECEPCIÓN DE LA OBRA Y PENSAMIENTO DE TOSHIHIKO IZUTSU EN ESPAÑA(RECEPTION OF TOSHIHIKO IZUTSU’S WORKS AND THOUGHT IN SPAIN)”, *International Research Forum Izutsu’s “Oriental Philosophy” and Religious Studies JSPS Grants-in-aid for Scientific Research (B)*, 2020, pp.191-209.

関連著作著者名索引

- 合庭惇 2014(3)
アッレス, グレゴリー・D 2017, 2020
阿部眞司 2015
荒川幾男 1983
マルセリーノ・アヒース=ビジャベルデ 2020
アルダラン, ナダール 2016
安藤礼二 2005(2), 2006(3), 2007(4), 2008(4), 2009(4), 2011(3), 2012, 2013, 2014(5), 2015(2), 2016, 2017, 2018(2), 2020
家島彦一 2010
五十嵐一 1986
池内恵 2007(2), 2009, 2014(2), 2016
池澤夏樹 2014
池澤優 2016, 2017, 2018(2), 2020
池田彌三郎 1981
池田晶子 1992, 2001, 2014
市川裕 2012, 2015, 2017, 2018, 2020
井筒豊子 1993, 2017
伊東俊太郎 1979, 1992
今道友信 1976, 1993
石見隆 1993, 2012
上田閑照 2016
上野俊哉 2014
宇野重規 2015
海野厚 1993
江島宏隆 2003
江藤淳 1992
大江健三郎 1991, 1993, 2014
大川玲子 2012
大河原知樹 2012
大澤真幸 2017
太田俊寛 2015
大橋良介 1992
岡部美香 2003
岡本行夫 2015
小野純一 2009, 2016(4), 2017(2), 2018, 2019, 2020(2)
鏡リュウジ 2014, 2015
葛西賢太 2012
柏木英彦 1976, 1993
柏木弘雄 1993
門脇佳吉 1993
金子奈央 2016, 2018(2), 2020
鎌田繁 1984, 1986(2), 1998, 2005, 2011, 2012, 2014, 2015(2), 2016, 2017(5), 2018(3), 2020
鎌田東二 2014
神谷幹夫 1987, 2009, 2011
亀山郁夫 2011
河合隼雄 1992, 1993,
河合俊雄 2014(3), 2019
河東仁 2014, 2016, 2020
川村湊 1991
木田元 2007
北尾克三郎 2013
黒田壽郎 1970, 1975, 1990, 1993, 2012, 2016
慶應義塾図書館 2002
氣多雅子 2015, 2017(3), 2018, 2020(2)
玄侑宗久 2014
久保隆司 2018, 2019
コーネル・ホフ, ジャン 2014
古勝隆一 2017, 2020
小嶋洋介 2017, 2018, 2019
小杉泰 2009, 2014
後藤明 2012
小西達也 2014
小沼純一 2016
小林敬和 1985, 1985
駒野欽一 2015
佐伯彰一 1993
斎藤慶典 2016, 2018, 2019
坂本勉 2010, 2012(2)

ザキプール, バフマン 2016, 2019, 2020
 佐々木力 1992
 佐藤勝 2019
 澤井義次 2002, 2006, 2012, 2014(4), 2015(2),
 2016, 2017(3), 2018(2), 2020(4)
 澤井真 2009
 榎木野衣 2018
 塩尻和子 2012
 司馬遼太郎 1993(2)
 島多代 2015
 島菌進 2014, 2018
 島田勝巳 2017, 2018
 下田正弘 2016, 2017, 2018
 シャリーアティー, エフサン 2016
 白井浩司 1992
 末木文美士 2014
 杉田英明 2010
 鈴木孝夫 2008, 2009, 2012
 砂山清 1991, 1993
 関根正雄 1991
 瀬戸内寂聴 2014
 互盛央 2016
 高木神元 1993
 高橋巖 2009, 2012, 2013, 2014
 高山鉄男 2009
 田口ランディ 2014(2)
 竹下肥潤 1981
 竹下政孝 1984, 1993, 2016
 立花隆 1992, 2013
 田中克彦 2008
 谷寿美 2012, 2014
 鶴岡賀雄 1986, 2019, 2020
 トーハ, アニス・マリク 2017
 得丸公明 2012
 新倉俊一 2014
 内記洸 2012
 永井晋 2004, 2007, 2014
 永尾教昭 2020
 長尾雅人 1993
 長岡徹郎 2018(2), 2020(2)
 中沢新一 1991, 1993, 2013, 2014
 中島岳志 2011, 2014(2)
 中田考 2017
 中西寛 2011
 中根千枝 2014
 中村廣治郎 1976, 1992, 2010, 2013
 ナスル, サイド・ホセイン 2015
 仁子寿晴 2019, 2020(2)
 西平直 2001, 2003, 2014(2), 2015(2), 2016(3),
 2017, 2019, 2020
 西村正身 2006
 新田義弘 2004
 丹生谷貴志 1992
 沼野充義 2014
 納富信留 2013, 2014(2), 2015, 2019
 野平宗弘 2014(2)
 野村喜和夫 2014
 野元晋 2004, 2012, 2014, 2015, 2017, 2018
 長谷部史彦 2012
 濱田恂子 2013
 東アジア出版人会議 2011
 日野啓三 1991, 2014
 平尾行藏 2004
 平山周吉 2016, 2017
 プールジャヴァーディー, ナスロツラー
 1993(2), 2016
 福永光司 1993
 藤井守男 2012
 細萱秀太郎 1990, 1992
 堀江聡 2010
 前嶋信次 1951
 前田保 1996
 前田英樹 2014
 牧野信也 1989, 1991, 1992(2), 1993, 1995,
 2012, 2014
 増永俊一 1979, 1985
 松枝到 2014
 松長有慶 1992
 松原秀一 1992, 1999, 2002, 2008, 2009, 2012
 松村力 2017

- 松本耿郎 1992, 1998, 2012, 2015
 松本健一 1993
 松山洋平 2019
 丸山圭三郎 1987, 1991(2), 1992, 1993(2)
 三浦雅士 2014
 水野善文 2015
 三田文学編集部 2014
 満原健 2009, 2011
 村上博子 1992
 森本和夫 1992
 森本公誠 1993
 師茂樹 2013
 矢島文夫 1992
 安岡章太郎 1991
 柳瀬睦男 1993
 山内継祐 2002
 山内志郎 2014, 2015(2), 2017
 山内昌之 1993, 2002
 山折哲雄 1992, 2009, 2017
 山崎達也 2017
 山城むつみ 2014(2)
 山村修 2013
 山本芳久 2014, 2015, 2017
 湯川豊 2009, 2014, 2016
 吉村萬壺 2014(3), 2015
 頼住光子 2014(2)
 ランドルト, ヘルマン 2012, 2014
 六光寺弦 2010, 2011
 ロペス・パソス, ファン・ホセ 2013, 2015,
 2018, 2020(2)
 若松英輔 2008, 2009(4), 2010(4), 2011(2),
 2012(3), 2013(4), 2014(9), 2015(4), 2016, 2017,
 2018, 2019
 [無署名] 1982, 1983, 2002, 2016, 2019
- E. B. 1960
 Abdul Kabir Hussain Solihu 2010
 Ahad Faramarz Gharamaleki 2010
 Ahmad Moyi Gada 2010
 Ahmad, Aziz 1973
- [al-] ‘Ākūb, ‘Īsā ‘Alī [Eisa Ali Al-Akoub] 2010
 Albayrak, İsmail 2012
 ‘Aliyya Riḍā Dād[Aliyya Reza Dad] 2010
 Ardalan, Nader 1998
 Arif, Syamsuddin 2007
 Atalay, Mehmet 2010
 Burton, John 1968
 Chittick, William C. 1998
 [al-] Faruqi, Isma‘il R. 1962
 Gregory D. Alles 2020(2)
 Gökkir, Necmettin 2010
 Hafas Furqani 2009
 Halil Rahman Açar 2010
 Hillman, James 1998
 Hussain Othman 2010
 Ibrahim Abu Bakar 2010
 Ibrahim Shogar 2010
 Ikezawa Masaru 2020
 Isa Muhammad Maishanu 2010
 Iwami, Takashi 1998(2)
 Jahanbakhsh, Forough 1998
 Jambet, Christian 1998
 Janan Izadi 2010
 Kamada, Shigeru 2009, 2010
 Kamiya, Mikio 1998
 Katakura, Motoko 1967
 Kaviani, Shiva 1998
 Kolb, David A. 1980
 Landolt, Hermann 1998
 Lawson, Todd 1998
 López Pazos, Juan José 2016
 Makino, Shinya 1998
 Marmura, Michael 1967
 Matsumoto, Akiro 1998
 Marcelino Agís Villaverde 2020(2)
 Mohamed Aslam Haneef 2009
 Muḥammad ibn Naṣr [Mohamed Ben Nasr]
 2010
 Nakamura, Kojiro 2009, 2010
 Nasr, Seyyed Hossein 1998

Nishihira, Tadashi 2015
Ono, Junichi 2015(2)
Paret, Rudi 1962, 1967
Partin, Harry 1970
Pourjavady, Nasrollah 1998
Rahman, Fazlur 1966
Ritchie, J. M. 1968
Rizvi, Sajjad H. 2010
Robson, James 1961
Sawai, Makoto 2010
Sawai, Yoshitsugu 1998, 2008, 2009, 2010, 2017,
2020
Schmidtke, Sabine 2004
Takeshita, Masataka 1987, 2016
Taylor, Mark C 1998
Thoha, Anis Malik 2010
Ueno, Toshiya 2010, 2012
Watt, W. Montgomery 1964, 1967
Wu, Kuang-Ming 1986
[-] 1978, 2001(2)